

KNOW

NEWS
LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2016.8
第95号



公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
Drug Abuse Prevention Center



RING!RING!
プロジェクト

この冊子は、競輪の補助金により作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>





NEWS LETTER

2016.8・第95号

C O N T E N T S

随想

- 薬物乱用防止を世界の青少年に！！
ライオンズクラブ代表国連薬物担当大使 山浦 晟暉 1

かいせつ

- 「ダメ。ゼットアイ。」で終わらせない薬物乱用防止教育
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也 ... 2
- 全国にコダマする「ダメ。ゼットアイ。」の合言葉 6
- 街頭キャンペーン・内閣府特命担当大臣・国連事務総長メッセージ
..... 39

国際薬物規制100年「過去からの物語」シリーズV

- 「1900年代初頭：国際麻薬規制条約体制の初期の日々」
(公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 藤野 彰 40
- 平成 27 年中の薬物情勢について 45
- 啓発資材のご案内 51
- ご寄付団体及び賛助会員 52

薬物乱用防止を世界の青少年に！！

ライオンズクラブ代表国連薬物担当大使

山 浦 晟 暉

公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが、薬物乱用者を出さない為の、未然防止事業として又、薬物乱用に対する正しい知識の普及啓発活動として、1987年設立して以来29年の長きに亘り、21世紀を荷負う青少年を中心に、人生を明るく健康で幸福に送る為に、日頃社会に輝かしい一灯を投じて居られる事に、心より敬意と感謝を申し上げます。

我々ライオンズクラブは、麻薬・覚せい剤乱用防止センター開設の10年後、1997年330-A地区（東京）の会員が、薬物乱用の恐ろしさを学び講師の資格を取得し、全国の小中高校に薬物乱用防止教室の展開をする活動を始め、本年19年目を迎えました。

当初は学校側やPTAから大変強いアレルギーを感じ、「寝ている子を起こさないでほしい」等、この活動に苦戦する時期がありました。が、昨今、私共ライオンズクラブの薬物乱用防止教室「ダメ・ゼッタイ」活動は、警察庁・内閣府・厚生労働省・文部科学省等の後援を受け、19年間で全国の多くの小中高校に拡大普及し、現在は学校側・PTAから「是非、薬物乱用防止の恐ろしさを訴える教室を開催してほしい」と云う要請が相次いでいるのが現状であります。

現在、全国で5万人以上のライオンズ会員が、薬物乱用防止講師の資格を取得し、1997年から2016年の19年間で、約300万人以上の小中高校の子供達が薬物乱用の恐ろしさ「ダメ・ゼッタイ」教室を受講しております。

その結果、この5、6年間で警察庁の発表により、まずと、全国未成年者の覚せい剤・大麻・有機溶剤等使用による犯罪検挙・補導数は、大幅に減少傾向にあるとの事であります。

ローマの詩人「ユウェナリス」の詩集に、「健全なる精神は健全なる身体に宿る」とあります。

私達は後世に生きる人々が、心身共に健康で幸せな人生を送れるよう、指導する事が最も重要な事と思っています。

又陽明学の権威である安岡正篤先生の「一灯照隅・万灯照国」の通り、一灯でなく萬灯つまり地球上の多くの人々が、地球上を明るく照らす為に集まり、薬物乱用防止を我が国は勿論、地球規模で訴え大きな愛の灯となり、明るい未来を築いて行くものではありませんか。

申し送れましたが、不肖山浦は現在ライオンズクラブ代表として、国連薬物・犯罪事務所UNODCの担当を致して居ります。

国連は1980年後半より、世界中に薬物乱用防止対策として、取締りの徹底強化と薬物の需要削減対策を打ち出しましたが、その後ライオンズクラブは、国連と連携して世界各国に対し、薬物乱用防止の強化を計る事と成りました。

私は2010、2012ライオンズクラブ国際理事として、世界200カ国の代表による国際理事会に於いて、ライオンズの奉仕活動の最重要課題である、青少年健全育成の中で、現在は勿論将来を生きる人々の幸せを考える時、世界中のライオンズが薬

物乱用の恐ろしさを、地球上の青少年に訴える活動を実践すべきであると提案し、世界代表の理事会で承認されました。

本年6月世界200カ国の代表3万人が福岡に集合し、国際世界大会が開催されました。

その初日の6月24日、薬物乱用防止セミナーを開催し、この事業に積極的なアルゼンチンの講師と共に、世界から集まったライオンズに、日本ライオンズの薬物乱用防止教室講座の成功例を説明し、貴方の国でも21世紀を荷負う青少年が健康で幸せな人生を送る為に、ライオンズ会員がこの方式を推進してほしいと訴えました。

又先月下旬開催された国連総会は、世界の薬物乱用問題に取組む包括的戦略について、この件を過去10年間で最大の国連イベントとする一方、ライオンズも21世紀を荷負う子供達の、健全な成長を支持する事的重要性を考え、LCIF（ライオンズ財団）も献身的支援に取組む方針を明らかにしました。

私達ライオンズクラブは、近年TVニュース等で報道される、目に余る薬物乱用による犯罪や交通事故撲滅の為、青少年健全育成を目的とした「ダメ・ゼッタイ」「ノードラッグ」の強化を計ろうと、本年10月29日（土）警察庁・厚生労働省・文部科学省・総務省のご協力のもと、東京銀座にて「薬物乱用防止・ダメ・ゼッタイ・ノードラッグ」のパレードを、全国ライオンズ参加のもと実施する予定であり、TVや新聞等を通して、街行く人々や青少年に薬物乱用の恐ろしさを訴えるPR活動を予定しております。

明日を荷負う青少年を薬物乱用から守り、明るい未来を築く為に「ダメ・ゼッタイ」運動は、我々の責務であります。

お互いに頑張りましょう。

せない薬物乱用防止教育

1. はじめに

日本は、先進諸国の中でも薬物乱用率が極めて低い薬物非汚染国です。国民の薬物乱用に対する予防意識は高く、「覚せい剤を使うべきではない」とする国民は95%を上回ります¹⁾。このニュースレターをご覧の方は、地域における薬物乱用防止の啓発活動に尽力されている方が大勢いらっしゃると思います。薬物乱用の極めて少ない社会、そして薬物乱用を許さない社会は、こうした地道な活動の積み重ねとも言えるのではないのでしょうか。

確かに、わが国では人びとが薬物に手を出さないための予防（一次予防）は成功しています。しかし、薬物問題を「犯罪モデル」で捉える傾向が依然として根強く、薬物乱用者の早期発見・早期介入（二次予防）や、薬物依存症者の再発予防やリハビリテーションの促進（三次予防）といった薬物問題を「医療モデル」で捉える視点は必ずしも十分ではないように感じます。薬物乱用を許さない社会は、薬物依存からの回復を願う当事者やその家族にとって必ずしも優しい社会ではないのかもしれない。

青少年に対する薬物乱用防止教育においても依

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長

然として一次予防的な教育が中心です。薬物の危険性や犯罪性を強調し、安易に薬物に手を出させないための「ダメ・ゼッタイ。」型の教育はこれからも必要でしょう。とはいえ、実際に薬物乱用の経験のある子どもたちもみられることから、薬物乱用防止教育は「ダメ・ゼッタイ。」で終わらせるべきではないと考えています。全国の中学生を対象としたモニタリング調査によれば、12歳～15歳の中学生における薬物乱用経験率（有機溶剤・覚せい剤・大麻・危険ドラッグのいずれか）は男子で1.3%、女子で0.6%、合計1.0%です（図1²⁾。つまり、中学生の100人に1人は、薬物乱用を経験しているという現実に向き合う必要があります。薬物乱用に誘われた経験を持つ子どもたちや、薬物を手できると回答した子どもたちはさらに多く、薬物乱用リスクの高い子どもたちは、大人が想像する以上に多いのです。

嶋根卓也

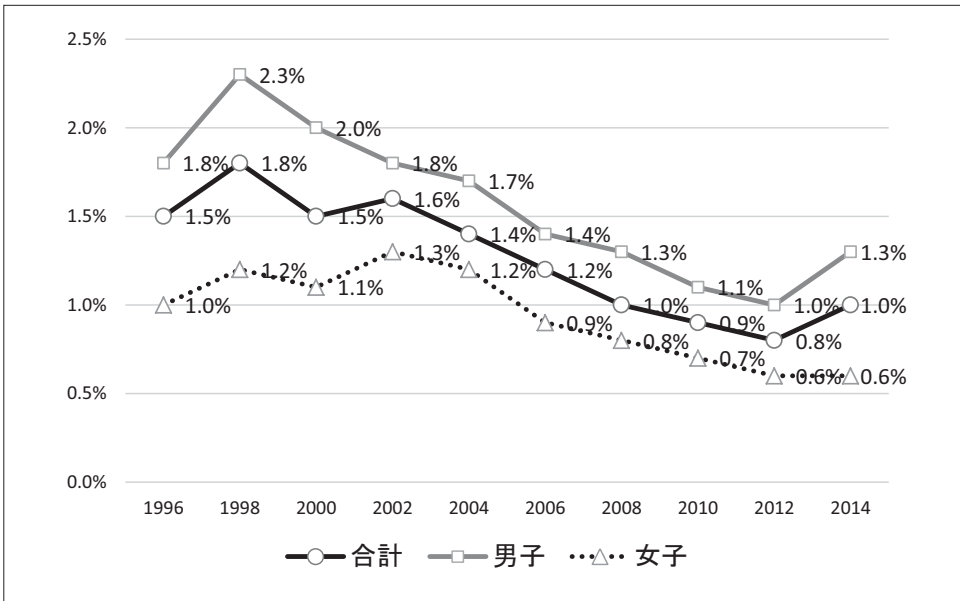


図1 中学生（12～15歳）における薬物乱用の生涯経験率の推移（1996-2014年）

文献2より、筆者が作成した。有機溶剤・覚せい剤・大麻・危険ドラッグのいずれかの使用経験がある中学生が占める割合を示した。

こうした健康リスクの高い子どもたちに対して「ダメ。ゼッタイ。」だけでは、予防効果は期待できません。中高生を対象とした調査によれば、薬物乱用経験を持つ子どもたちは、学校生活に馴染めない、家族とのコミュニケーションが不足している、自尊心が低い、リストカットなどの自傷行為経験率が高いなどの特徴があることが知られています。こうした特徴を子どもたちに対して、薬物乱用の危険性を強調するだけのアプローチをしても、予防効果が期待できません。それどころか、自分の薬物問題を周囲の大人に相談する機会を逃す可能性もあり、場合によっては、薬物問題をより重症化させる危険性もあるかもしれません。さまざまな論文を系統的にまとめたシステムレビューによれば、知識伝達型の教育は薬物乱用の予防効果として十分ではないことが示されています³⁾。そこで本稿では、「ダメ。ゼッタイ。」で終わらせない薬物乱用防止教育について提案してみたいと思います。

2. 若者はなぜ薬物を使うのか

青少年の薬物乱用を予防していくためには、彼らが薬物に手を出す心理について理解する必要があります。米国の国立薬物乱用研究所 (National Institute of Drug Abuse) によれば、人が薬物を使う動機は大きく4つあるとされています^{4,5)}。

「気持ちよくなるため」および「パフォーマンスをあげるため」は、乱用の動機としては比較的

なぜ人は薬物を使うのか？

1. 気持ち良くなるため
- To feel good
2. パフォーマンスを上げるため
- To do better
3. 好奇心とピア・プレッシャー
- Curiosity and "because others are doing it"
4. 気分を変えるため
- To feel better

図2 なぜ人は薬物を使うのか？

文献 4、5 をもとに筆者が作成した。

想像しやすいかもしれません。これらの動機は、乱用物質が持つ薬理作用により引き起こされる快感、高揚感、覚醒効果、陶酔感などの精神作用性を期待したものとして理解できます。

一方、年齢が若い青少年にとっては、好奇心やピア・プレッシャー(周囲の仲間からの圧力)が大きな影響を果たしているようです。社会問題化した危険ドラッグを例に挙げると、その入手先は「友人・知人からもらった」が最も多く、インターネットや販売店での購入を大きく上回ります⁶⁾。

また、危険ドラッグの使用動機としては、「友人に誘われた」ことが最も大きく影響しています⁶⁾。友人から危険ドラッグ乱用の誘いを受け、「みんなも使っているから」と自分を納得させながら危険ドラッグを使い始める若者像が想像できます。

こうしたピア・プレッシャーの背後には、「仲間外れにされたくない」、「空気が読めないヤツと思われたくない」、「ホントは使いたくないけど、断りにくい」といった本音もあるのかもしれませんが。

「気分を変えるため」という動機は、こころの健康(メンタルヘルス)と密接な関係があります。「気分を変えたい」ということは、今すぐ変えたいくらい辛い気分があると考えることができます。「イヤなことを忘れたい」、直面する「生きづらさ」から逃れたいという気持ちから薬物を使う人も少なくありません。実際、薬物依存患者の70%以上には何らかの被虐待経験があるという報告もあります⁷⁾。

青少年にとって、薬物始める動機は好奇心やピア・プレッシャーかもしれませんが、薬物を使い続ける動機は、何らかの「生きづらさ」や「低い自尊心」が背後にあるのかもしれません。薬物を使い続ける人の立場からすれば、薬物は快楽や酔いをもたらす道具だけではなく、自らが抱える心の痛みを麻痺させるための道具にもなり得るということです。そういう意味では、不適切な対処方法とはいえ、薬物乱用は彼らが生きる上で必要な行動であったと理解することが出来ます。

3. リスクの高い児童・生徒を無視しない

わが国の薬物乱用防止教育は、学習指導要領に収載され、現在では小学校から高等学校まで一貫

して行われています。保健体育科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などを使って、主として保健体育の教員によって実施されています。指導内容は薬物乱用の有害性・危険性を学習するだけでなく、セルフエスティーム形成スキルや意志決定スキルなど、心理社会的能力（ライフスキル）の獲得も重視されています。これは、心理社会的能力の低い青少年が社会的要因の影響を強く受け、薬物乱用を含む危険行動をとりやすいと考えられているからです。

文部科学省では、教科としての薬物乱用防止教育とは別に、校外の専門家による「薬物乱用防止教室」の開催を推進しています。このニュースレターをお読みの方の中には、「薬物乱用防止教室」の講師として乱用防止教育に携わっている方も少なくないでしょう。学校における薬物乱用防止に関する指導は、学校と家庭、地域社会との連携が不可欠なので、警察職員、学校医、学校薬剤師等の専門家との連携、協力による総合的な取り組みが必要という観点で開催されています⁸⁾。つまり、地域には様々な専門家がいて、子どもたちを見守っていることを伝えることが本来の目的ではなからうかと思っています。

今回提案する「ダメ。ゼッタイ。」で終わらせない薬物乱用防止教育では、乱用リスクの高い子どもたちの存在を無視せずに、「次に使わないためにはどうすればいいか？」という視点を持つことを重視しています。そして、薬物問題を抱えた子どもたちが大人にSOSを出しやすくなるよう

な働きかけを行うことが必要です。

一般的に、ピア・プレッシャーから薬物に手を出してしまった子どもは、保護者や担任教員など身近な大人にSOSを出しにくいという特徴があります。なぜなら、「そんなこと（薬物乱用のこと）を相談したら、何らかの不利益（学校を退学させられるなど）があるかもしれない」と不安に思うからです。また、「相談すること自体が恥ずかしい」という子どももみられます。

薬物乱用の危険性を強調するだけでなく、「薬物のことで困ったらどうすればいいか？」という話題を出しつつ、「もし、困ったことがあれば、身近にいる信頼できる大人に相談してもいい」と、乱用リスクの高い子どもが大人にSOSを出しやすくなるようなメッセージを伝えることが重要です。もっとも、信頼できる大人は、親や担当教員とは限りません。むしろ、養護教諭やスクールカウンセラーが相談しやすい場合もあるでしょう。身近にいる大人を想像して「どの大人になら相談できそうか？」とシミュレーションさせることもできるでしょう。

また、薬物問題の専門的支援についても併せて伝えていくことも必要です。地域における専門機関としては「精神保健福祉センター」を活用していくことを推奨しています。薬物依存症の専門病院は全国でも限られています。精神保健福祉センターであれば、全国の都道府県および政令指定都市に設置されているからです。また、薬物問題を抱えた青少年の中には、薬物問題のみならず、

発達障害・不登校・ひきこもり・自傷行為・摂食障害などの諸問題を併存している症例も少なくありませんので、子どもたちのメンタルヘルスを総合的に支援できる体制が必要となります。精神保健福祉センターには、精神科医をはじめ、保健師、精神保健福祉士などの専門家が設置され、薬物乱用・依存を含む、メンタルヘルス上のさまざまな相談に応じることができる専門機関と言えます。さらに、薬物問題を抱えた青少年においては家族支援も重要です。精神保健福祉センターでは、「家族相談」を受けることができます。これは、悩みを抱えた家族もやはり当事者の一人という視点であり、家族を支援していくことが、ひいては本人の回復に役立つという考えに基づいています

4. おわりに

青少年に対する薬物乱用防止活動は、学校における乱用防止教育に限りません。学校で「先生から教わる」のではなく、むしろ学校ではないセッティングで、「自分の頭で考えさせる」ような働きかけの方が、子どもたちにとって予防効果の高い活動ではないでしょうか。

東京都薬物乱用防止推進東大和地区協議会が主催している「STOP the DRUG」は、その好事例です（図3）。薬物乱用防止の啓発活動とダンスイベントの見事なコラボレーションをしているこのイベントには、子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層が出演します。パフォーマンスの前には薬物乱用防止にちなんだメッセージを発表し、



図4 ダンスパフォーマンスの様子



図3 Stop the DRUG2016のフライヤー
(チラシ)

それぞれのダンスチームがステージでパフォーマンスを披露していきます(図4)。こうした仕掛けによって、子どもたちと、その子どもたちのステージを観にきた大人たちが、一緒になって薬物乱用防止について考える機会が形成されます。8回目の開催となった2016年のイベントでは、薬物依存からの回復者による歌のステージを取り入れたほか、筆者も専門家の立場から講演を行いました。

「ダメなものは、ダメ」と上から押し付けられるような啓発活動ではなく、自らダンスを楽しみながら、薬物乱用防止について主体的に考えていくことができる最新型の薬物乱用防止活動であると感じました。こうした活動が今後も継続すること願うとともに、他の地域にも広がっていくことを期待しています。

文献

1. 嶋根卓也, 大曲めぐみ, 和田清ほか…薬物使用に関する全国住民調査(2015年), 平成27年度厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 危険ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究, 分担研究報告書, 7-166, 2016.

2. 和田清, 邱冬梅, 嶋根卓也, 立森久照, 勝野眞吾…飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査(2014年), 平成26度

厚生労働科学研究費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業) 研究報告書「脱法ドラッグ」を含む薬物乱用・依存の実態把握と薬物依存症者の「回復」とその家族に対する支援に関する研究(研究者代表者: 和田清), pp.17-93, 2015.

3. Faggiano F, Minozzi S, Versino E, et al.: Universal school-based prevention for illicit drug use. Cochrane Database Syst Rev. 2014.

4. National Institute on Drug Abuse: Drugs, Brains, and Behavior-The Science of Addiction-2007; 6.

5. 嶋根卓也: 青少年はなぜ薬物に手を出すのか, 教育と医学, 738: 58-67, 2014.

6. 嶋根卓也: 危険ドラッグ…夜の繁華街の若者における乱用実態, 日本臨牀, 73: 1491-1496, 2015.

7. 梅野充, 森田展彰, 池田朋広, ほか: 薬物依存症回復支援施設利用者からみた薬物乱用と心的外傷との関連, 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 44: 623-635, 2009.

8. 公益財団法人日本学校保健会: 薬物乱用防止教室マニュアル平成26年度改訂, 東京, p13, 2015.

普及運動・国連支援募金

「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉



平成28年度も厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合(薬物犯罪事務所)、薬物乱用対策推進会議のほか警察庁など関係11省庁の協賛及びボイススカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブほか42団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施され、その一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」は、6月27・28日を中心に約一カ月間、各都道府県で実施されました。(788ヶ所、約75,627人参加)

本普及運動は、新国連薬物乱用根絶宣言(2009(2019年)の支援事業の一環として、官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて、国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り、内



ダメ。ゼッタイ。 全国にコダマする



外における薬物乱用防止に資するために実施されるものです。

(公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、この運動と並行して、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出、「一声運動」による啓発、募金運動などを行う「地域団体キャンペーン」も全国的に実施されました。

以下、各都道府県からお寄せいただいた「6・26ヤング街頭キャンペーン」等の状況をご報告いたします。



北海道

月 日	6月11日～7月19日
開催場所	函館市、札幌市等、全道179市町村で実施。
活動主体	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会（21地区）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等）、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等
参加人員	約600人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 全道21地区で、北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生等）、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等あわせて約700人が、大型スーパー前、各祭事イベント会場、大学祭、登校時の中学校校門前等において、道民を対象に、危険ドラッグ、大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、のぼり、ポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 6月20日～7月19日までの間、道内約300店舗（薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー等）の協力を得て、麻薬・覚せい剤等の乱用防止に関するチラシ等の配布、ポスターの掲示を行い、あわせて、違法ドラッグ、大麻等の危害について「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金箱設置の協力を得た。



北海道

青森県

月 日	6月21日、6月26日
開催場所	（青森市）JR青森駅前（弘前市）さくら野百貨店弘前店、イオンシネマ弘前



青森県

岩手県

月 日	6月25日、26日
開催場所	①前沢イオン（奥州市）、②マリンコープDORA（いわて生活協同組合）（宮古市）、③二戸ショッピングセンターニコア（二戸市）計3ヶ所
活動主体	岩手県薬物乱用防止指導員、管内ボーイスカウト、管内ガールスカウト、奥州保健所、宮古保健所、二戸保健所
参加人員	①奥州34名、②宮古8名、③二戸21名 合計 63名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内3会場にて、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウトの協力のもと、一声運動、リーフレットや傷絆創膏の配布及び薬物乱用防止啓発パネル展示等により、薬物乱用防止啓発を行った。

活動主体	主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 協力団体 青森県薬剤師会、青森市薬剤師会、青森県医薬品登録販売者協会、青森県医薬品配置協会、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、青森大学薬学部、青森県薬物乱用防止指導員各地区協議会、青森市保健所、青森県
参加人員	（青森市）40人 （弘前市）105人
活動状況	6・26ヤング街頭キャンペーン 6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。

②地域団体キャンペーン
 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。
 その他、夏の高校野球岩手県大会会場内に啓発横断幕を設置し、広く県民に対し薬物乱用防止の普及啓発を行った。



岩手県



宮城県

宮城県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月6日、7日、14日、15日、22日、23日、26日、29日	各地区イオンモール店舗、ヨークベニマル店舗、陸上自衛隊仙台駐屯地、仙台駅ペDESTリアンデッキ 計8ヶ所	宮城県薬務課、各保健所、宮城県薬物乱用防止指導員、高校生ボランティア、ライオンズクラブ、ワイワイクラブ、各地区薬剤師会、各地区医師会、各地区警察署、各市町村、東北厚生局麻薬取締部	約500人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 各会場において、薬物乱用防止指導員、高校生ボランティアが中心となり、啓発資材（リーフレット・絆創膏・ポケットティッシュ等）の配布、募金活動を実施したほか、のぼりやパネル、薬物標本を展示し、薬物乱用防止への理解と協力呼びかけた。また、薬物乱用防止啓発訪問事務局から貸し出された違法薬物に関するクイズ・射的ゲームセットを用いて、特に若年層に対し、違法薬物の危険性を訴えた。さらに、「ダメ。ゼッタイ。」君や仙台・宮城観光PRキャラクターの「むすび丸」も登場し、イベントを盛り上げた。 ②地域団体キャンペーン 7月23日に仙台市薬剤師会が、全国政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーンとして、仙台駅ペDESTリアンデッキにて、リーフレットやうちわを配布した。

秋田県

月 日	開催場所	活動主体
6月25日、26日、27日、30日、7月2日、3日、9日、10日	イオンスーパーセンター本荘店（由利本荘市）、ユニバース毛馬内店（鹿角市）、JR能代駅、JR東能代駅（能代市）、秋田駅東西連絡自由通路ぼろーど（秋田市）、JR男鹿駅（男鹿市）、イオン横手店（横手市）、湯沢市柳町商店街（第31回湯沢市ふれあい広場）会場内（湯沢市）、いとく鷹巣ショッピングセンター、イオンタウンたかのす（北秋田市）、イオンモール大曲（大仙市）計11か所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動秋田県実行委員会 ・大館鹿角地域実行委員会・本荘由利地域実行委員会・鷹巣阿仁地域実行委員会・大曲仙北地域実行委員会・能代山本地域実行委員会・横手平鹿地域実行委員会・秋田周辺地域実行委員会・湯沢雄勝地域実行委員会



秋田県

活動状況	参加人員
	計401人
①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内11カ所で街頭キャンペーンを実施した。ヤングボランティア（高校生・専門学校生等）の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、大型ショッピングセンター等において横断幕、のぼり、なまはげ、ゆるキャラの着ぐるみ等を活用しながら、「ダメ。ゼッタイ。」一声運動、内閣府特命担当大臣メッセジ伝達、啓発資材の配布、国連支援募金活動並びに県警薬物乱用防止広報車「みちびき号」を活用した啓発を実施した。 秋田駅東西連絡自由通路ばらーどでのキャンペーンにおいては、県内にあるプロバスケットチームの選手等が参加し、通勤中の住民に広く啓発を行った。 ②地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や飲食店等にてポスターの掲示、リーフレットの配布等を行った。	
月 日	6月11日、25日、26日、7月3日
開催場所	ヨークベニマル新庄店・ドラッグストア マットキヨシ アクロスプラザ新庄店、イオンモール山形南、イオン米沢店、イオンモール三川、計4ヶ所
活動主体	県内各保健所
参加人員	196名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内4ヶ所の開催場所に薬物乱用防止広報車を配置し、学生ボランティア、薬物乱用防止指導員、少年補導員等によるリーフレット、ティッシュ等の配布、「ダメ。ゼッタイ。君」着ぐるみの活用により、薬物乱用防止を呼びかけるとともに国連支援募金活動を行った。 ②地域団体キャンペーン 37協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送

山形県



福島県



山形県

付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び募金活動を実施した。

また、7月13日に山形県薬剤師会会員、保健所職員等が、山形駅、新庄駅、米沢駅、鶴岡駅の構内において、主に通学中の高校生を対象にリーフレット、ティッシュを配布し、危険ドラッグ等の薬物乱用防止の呼びかけを行った。

福島県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	福島市、伊達市、二本松市、郡山市、田村市、須賀川市、石川町、平田村、白河市、棚倉町、会津若松市、会津美里町、南会津町、南相馬市、いわき市 計15市町村17カ所
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会（県内16地区）、関係団体、ヤングボランティア（高校生、専門学校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等）
参加人員	1,142名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中に、県内15市町村17カ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。 各地区でキャンペーンに併せて「6・26ヤング街頭キャンペーンセレモニー」を開催し、ヤングボランティア代表による「ダメ。ゼッタイ。」麻薬撲滅宣言等を行った。 また、各地区のキャンペーンでは、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、JR駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配布しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。 ②地域団体キャンペーン 関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。 ③その他 全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている3カ所の球場に横断幕【薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」】を掲示し、啓発を図った。

茨城県

月 日	6月11日～7月30日
開催場所	水戸市、笠間市、小美玉市、ひたちなか市、常陸太田市、日立市、高萩市、鉾田市、行方市、神栖市、龍ヶ崎市、土浦市、つくば市、筑西市、下妻市、常総市、坂東市、古河市 計21カ所(①、③合計、複数回実施市あり)
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、県薬物乱用防止指導員協議会、ヤングボランティア(中・高校生)、関係団体、関係機関
参加人員	約1,250名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内15カ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生・高校生等のヤングボランティアに加え、薬事関係団体、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、街頭においてリーフレット、カットパン、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動効果的に実施した。 ②地域団体キャンペーン 県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ③その他 茨城空港において、県警及び税関と合同で特別キャンペーンを行い、利用者に対してリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。 また、高校野球県大会会場(5球場)において横断幕の掲示を行い、来場者に対する啓発を行った。

栃木県

月 日	6月25日～27日
開催場所	宇都宮 JR宇都宮駅、ララスクエア宇都宮、オリオン通り商店街、パルコ宇都宮店、バンバ市民広場 県西 ビバモール鹿沼 県南 イオンモール小山 県北 JR西那須野駅東口 安足 アピタ足利店、イオン佐野新都市店 計10ヶ所
活動主体	栃木県 宇都宮市
参加人員	231名 △内訳▽ 指導員(65)、ボーイスカウト(26)、ガールスカウト(21)、事務局(34)、その他(85)
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内10ヶ所で薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア(ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生、大学生)、関係機関、そして栃木SSCに加え、プロバスケットボールチームのリンク栃木ブレイクスの協力を得て啓発資材の配布や国連支援募金活動を実施した。さらに、今年度は大学生が寸劇を上演し、観客と共に薬物に勧誘された時の断り方について考えた。 当キャンペーンの趣旨や、最近社会問題となっている危険ドラッグなど薬物のおそろしさを説明し、本事業の目的である薬物乱用を根絶するための活動を実施した。 ②地域団体キャンペーン 啓発ポスターを掲示した。(市町、警察、県出先機関、県立高等学校等の施設)



栃木県



茨城県

群馬県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月11日～7月27日	前橋地区（①JR前橋駅、②新前橋駅）、高崎地区（③高崎駅東口及び西口ペデストリアンデッキ）、渋川地区（④JR渋川駅）、伊勢崎地区（⑤スマーク伊勢崎）、安中地区（⑥JR安中駅）、藤岡地区（⑦JR群馬藤岡駅）、富岡地区（⑧ベシア富岡店）、吾妻地区（⑨JR中之条駅）、利根沼田地区（⑩JR沼田駅）、東部地区（⑪ニコモール及びジョイフル本田新田店）、桐生地区（⑫大間々高校、⑬JR桐生駅、⑭上毛電鉄西桐生駅）、館林地区（⑮東武鉄道館林駅）計15カ所	群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用防止推進連絡協議会、「ダメ。ゼッタイ。」各地区推進連絡会議（12地区）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生等）、関係団体（医師会、薬剤師会、保護司会、民生委員児童委員協議会、少年補導員連絡会、医薬品配置協会、ライオンズクラブ、更生保護女性会、食育衛生協会、ロータリークラブ等）	584人	①県内15カ所で、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、合計584人が駅前やショッピングセンター、高校等において、薬物乱用防止啓発リーフレット、危険ドラッグ乱用防止啓発リーフレット、ポケットティッシュ、絆創膏等の啓発資材を配布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。また、ヤングボランティアが中心となって、国連支援募金活動を行った。

埼玉県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月26日～8月7日	わらび機まつり、北朝霞駅、春日部駅、越谷駅・新越谷駅、越谷市民球場、草加朝顔市、イオンモール与野、東松山市内（大東文化大学ほか6カ所）、小川町七夕まつり、嵐山町夏祭り、坂戸市内各駅（坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅）、西武プリンスドーム、羽生駅、加須駅、行田市教育文化センター、久喜提燈祭り、熊谷うちわ祭、深谷まつり、本庄祇園まつり、あめ薬師縁日ほか 計21カ所	埼玉県、埼玉県薬物乱用防止指導員連絡協議会、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動埼玉県実行委員会、埼玉県警察本部、埼玉県教育委員会、各市町村、ライオンズクラブ330-C地区、日本ボーイスカウト埼玉県連盟など	399人	①6・26ヤング街頭キャンペーン、青少年啓発キャンペーン 県内の祭りや駅頭等において、横断幕・のぼりを掲

②地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて店頭募金箱を設置してもらい国連支援募金活動への協力を呼びかけた。

③7月9日から27日までの期間、第98回全国高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛新聞敷島球場及び高崎城南野球場に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。

④6月4日及び6月25日に群馬ダイアモンドペガサス、7月3日にザスパクサツ群馬の試合会場にて、群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱用防止啓発を実施した。



埼玉県



群馬県

示するとともに、リーフレット、うちわ及びポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。また、ボーイスカウトなどによる街頭募金を通じて、薬物乱用防止を訴えた。

②地域団体キャンペーン

関係団体の店頭等にポスター掲示と募金箱を設置し、国連支援募金の呼びかけを行うとともに、関係団体が主催するキャンペーンにおいて啓発資材を配布した。また、地元企業の協力により電光掲示板等による啓発活動を実施した。

③その他

県ホームページや市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。

千葉県

月 日	6月20日～7月29日
開催場所	習志野市、市川市、松戸市、我孫子市、野田市、佐倉市、多古町、香取市、東庄町、銚子市、東金市、茂原市、いすみ市、館山市、鴨川市、木更津市、市原市、千葉市、船橋市、柏市 計23ヶ所
活動主体	千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会
参加人員	1,965人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内23ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、うちわ、ポケットティッシュ、リーフレット等啓発資材の配布を行い薬物乱用防止を訴えた。 ②地域団体キャンペーン 医師会、歯科医師会、薬剤師会、薬業会、理美容組

合、クリーニング組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。

③広報啓発活動

定例記者会見、県ホームページ等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。



千葉県



東京都

東京都

月 日	①6月26日 ②③④6月20日から7月19日までの期間
開催場所	①6・26国際麻薬乱用撲滅デー都民の集い(東京スカイツリータウン 東京ソラマチ4階 スカイアリーナ) ②街頭キャンペーン・地域団体キャンペーン(JR八王子駅北口 他) ③行政機関(台東区役所、都保健所 他)
活動主体	①都民の集い(主催…東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター 共催…墨田区 協力…警視庁、株式会社ニーズプラス) ②地域団体 ③行政機関
参加人員	①約7,700人
活動状況	①都民の集い △催し物▽ (1)式典(主催者・来賓挨拶等) (2)「ダメ。ゼッタイ。」トークライブ・ステージショー(出演者…テツandトモ) (3)警察犬(薬物搜索犬) デモンストレーション(4)薬物乱用撲滅宣言 △啓発活動企画展示▽ (1)薬物乱用防止企画展示(パネル等) (2)啓発活動(リーフレット・グッズ配布等) (3)国連支援募金活動(4)着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。君」「ピーボくん」 ②街頭キャンペーン・地域団体キャンペーン ダメ。ゼッタイ。普及運動期間中、都内各地で工夫をこらした啓発活動を行った。 ③行政機関 啓発ポスターの掲示などを行った。 ④その他 都提供番組や広報紙で薬物乱用防止に関する内容を取り上げた。 街頭・列車内ビジョン等で啓発動画を放映した。

神奈川県

月 日	7月19日ほか
開催場所	横浜駅ほか県内主要駅、スタジアム、文化施設、商業施設等
活動主体	県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議（薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等183団体）、市町村、教育委員会、県警察本部等
参加人員	約2,000人（横浜駅）
活動状況	7月19日、横浜駅において「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーンを実施、「ダメ。ゼッタイ。子ちゃん」も駆けつけ、啓発資材を配布し、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止を呼びかけた。 この他、県内各地において、6月20日から7月19日にかけて、スタジアム、地域のお祭り、イベント等における啓発資材の配布やブース出展等、県薬物乱用防止指導員協議会を中心に、地域と一体となった積極的な啓発活動を実施した。「ダメ。ゼッタイ。君」「ダメ。ゼッタイ。子ちゃん」をはじめとするマスコットキャラクターも各地のイベントに出現、薬物乱用防止を呼びかけた。 また街頭キャンペーンだけでなく、ポスター掲示や県業務課公式ツイッター（@Kana-yaku）等も活用し、広く県民に普及啓発を実施した。



神奈川県



新潟県

月 日	開催場所
6月15日、18日、21日、22日、23日、24日、25日、27日、28日、7月1日、19日	村上市、新発田市、五泉市、燕市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、妙高市、糸魚川市、佐渡市、新潟市 14市、14ヶ所

新潟県

活動主体	新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部（新潟県教育委員会、新潟県警察本部、新潟県地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京入国管理局新潟出張所、一般社団法人新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、公益社団法人新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会）、新潟県薬物乱用防止指導員、一般社団法人新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、一般社団法人ガールスカウト新潟県連盟、公益社団法人新潟県防犯協会、公益社団法人新潟県食品衛生協会、公益財団法人新潟県生活衛生営業指導センター、一般社団法人新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、新潟県麻薬協会、新潟県高等学校野球連盟
参加人員	約400人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内14会場において、ボーイスカウトやガールスカウト及び高校生等のヤングボランティアをはじめ、薬業関係団体やライオンズクラブ等の協力を得て、リーフレット・ポケットティッシュ・キズ絆創膏などの啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を行った。 三条市、南魚沼市及び佐渡市の会場では、地元で活動している新潟お笑い集団「NAMARA」のタレントの方からも参加協力をいただき、バルーン芸などを披露し、啓発活動を行った。 ②その他 ア デンカビッグスワンスタジアムで開催されたサッカーJ1アルビレックス新潟の試合において、大型映像装置により啓発ビデオを放映し、薬物乱用防止を訴えた。 イ 全国高等学校野球選手権大会新潟県大会期間中、

会場の鳥屋野球場及びハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止の懸垂幕及び横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発を図った。

ウ 県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕、ポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。

富山県

月 日	7月10日
開催場所	富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市、射水市 計6市6カ所
活動主体	富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会（41団体） ○6・26ヤング街頭キャンペーン参加者 ・高校生等の学生（9校、56人） ・富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 ガールスカウト富山県連盟、国際ソロプチミスト、富山県医薬品登録販売者協会、富山県医薬品配置協議会、富山県高等学校PTA連合会、富山県少年警察ボランティア連絡協議会、富山県塗料商同業会、富山県内少年補導センター連絡協議会、富山県PTA連合会、富山県保護司会連合会、富山県薬剤師会、日本ボーイスカウト富山県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-D地区（五十音順） ・警察職員、県職員、富山市保健所職員
参加人員	290人
活動状況	高校生等の学生、ボーイスカウト、ガールスカウトのヤングボランティアを中心に、薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下6会場（繁華街、ショッピングセンター等）において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、

絆創膏、ポケットティッシュの啓発資材を配布した。併せて、国連支援募金活動を実施した。

また、青少年が集うイベント（全国高校野球選手権富山大会、カターレ富山公式戦）において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。



富山県

石川県

月 日	6月26日
開催場所	金沢市、小松市、白山市、中能登町、穴水町 計5会場
活動主体	県、県警察本部（組織犯罪対策課、少年課）、金沢市保健所、県薬剤師会、県保護司会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト県連盟、ガールスカウト県支部等



石川県

参加人員	270人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 金沢駅前や大型ショッピングセンターなど県内5会場において、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト等）、薬物乱用防止指導員及び業団体の会員が中心となり、会場を訪れた買い物客等にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 6月20日から7月19日までの期間、県薬剤師会等の地域団体の協力を得て、薬局や生活衛生営業施設等にポスターを掲示するとともに、募金箱を設置し、薬物乱用による危害について一声かける「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ③青少年への啓発活動 7月14日から開催された第98回全国高等学校野球選手権石川大会の期間中に、関係機関の協力を得て、横断幕・ポスターを掲示し、試合中の電光掲示板に薬物乱用防止のメッセージを流すことで球場に応援に来た学生ら若者に薬物乱用防止の啓発を行った。

福井県

月 日	6月25日
開催場所	福井市、坂井市、勝山市、越前市、敦賀市、小浜市 県内計6か所
活動主体	県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟
参加人員	約200人
活動状況	ヤングボランティア（ガールスカウト、ボーイスカウト）、薬物乱用防止指導員が中心となって、ショッピングセンター等の県内6カ所で、啓発物（リーフレット、携帯用クリーナー、風船等）の配布を行い、マスコット着ぐるみやのぼり等を使用した街頭キャンペーンを実施した。なお、一部会場では啓発パネルおよび薬物標本を展示し、薬物乱用防止の啓発を行った。さらに、ヤングボランティアが中心となって国連支援募金活動を行った。



福井県

山梨県

月 日	6月25日
開催場所	主要駅前、ショッピングセンター等 計11ヶ所
活動主体	県、県薬物乱用対策推進本部、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、県警察本部、警察署、市町村、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、医師会、歯科医師会、薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、中学生・高校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等
参加人員	600人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内4保健所1支所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による「内閣府特命担当大臣メッセージ」の披露をはじめとした式典を開催した。それに引き続き、参加学生・ガールスカウトが中心となって、リーフレットその他啓発資材の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。併せて、ポスター、のぼり、横断幕を掲示し、普及啓発に努めた。 ②地域団体キャンペーン 運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等にリーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 ③メッセージ映像の放映 7月7日に開催された「平成28年度青少年の非行・被害防止県民大会」において、今年度配付された薬物乱用防止の啓発メッセージ映像を放映した。 (参加者約500人)



長野県



山梨県

長野県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月21日～6月26日	イオンモール佐久平前、J R佐久平駅前、アリオ上田店前、オギノ茅野ショッピングセンター、アピタ伊那店前、アピナ伊那店前、アピタ飯田店前、イオン飯田アップルロード店前、J R木曽福島駅前、木曽青峰高等学校前、蘇南高等学校前、J R松本駅前、フレスポ大町、大町岳陽高等学校前、池田工業高等学校前、白馬高等学校前、綿半スーパーセンター千曲店、イオン中野店、J R飯山駅前、飯山高等学校前、長野駅前 計15市町村21ヶ所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会企画4機関・23団体 県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴業生活衛生同業組合、日本ボーイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟	737人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県下21ヶ所において、ボーイスカウト・ガールスカウトの青少年や、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ・ロータリークラブ会員、保護司、薬業関係者、

岐阜県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日、26日	岐阜市(2)、各務原市、瑞穂市、大垣市、池田町、関市、美濃加茂市、郡上市、多治見市、中津川市、高山市、下呂市 計13ヶ所	岐阜県、岐阜市、郡上市、保健所、各地区薬物乱用防止指導員協議会、薬剤師会、登録販売者協会、医薬品配置協議会、保護司会、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、高等学校等の生徒、警察署等	395人	①6・26ヤング街頭キャンペーン J R岐阜駅前、岐阜メモリアルセンター長良川競技場やショッピングセンターなど県下13ヶ所にて、薬物乱用防止指導員をはじめとするボランティアが、会場を訪れた方に啓発資料のティッシュペーパーやパンフレット等を配布し、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止を訴えるとともに、ボーイスカウト、ガールスカウトらが国連支援募金への協力を呼びかけた。

行政機関職員等737人が、通行人23,645人に啓発用のチラシやポケットティッシュ等を配布して薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン
病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。

また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭に募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。

会場周辺には「ダメ。ゼッタイ。」普及運動ののぼりを掲げ、参加者はタスキや啓発用帽子を着用して積極的に活動した。

J R岐阜駅前会場では、「ダメ。ゼッタイ。」君と「清流の国ぎふ」マスコットキャラクターのミナモの応援も得て若者へのPRに努めた。

また、地デジデータ放送やフェイスブックを通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びキャンペーンの周知と、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン
岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校・大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。

また、小学校、中学校、高等学校、大学等で開催している薬物乱用防止出前講座において、児童、生徒に対して薬物に関する正しい知識と薬物乱用防止について啓発を行った。



岐阜県

静岡県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
① 6月22日、② 6月23日、③ ④ 6月24日、⑤ 7月20日	① J R 沼津駅（沼津市）② 県立下田高校駅（下田市）③ J R 藤枝駅（藤枝市）④ J R 静岡駅（静岡市葵区）⑤ I A I スタジアム日本平（静岡市清水区）計5か所	静岡県、静岡県薬物乱用対策推進本部、静岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、静岡県薬物乱用防止指導員協議会、各市町、一般社団法人日本ボーイスカウト静岡県連盟、一般社団法人ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-C地区、国際ソロプチミスト静岡、一般社団法人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、公益社団法人静岡県病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容業生活衛生同業組合、静岡県クリーニング生活衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、一般社団法人静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護女性連盟、静岡県カラオケルーム防犯協会、日本塗料商業組合静岡県支部	157人	○6・26ヤング街頭キャンペーン ・6月22日から24日に県内のJ R 駅又は県立高校周辺において、薬物乱用防止指導員やライオンズクラブ等の協力を得て、啓発用リーフレット、ポケットティッシュを通行者に配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。 ・7月20日にI A I スタジアム日本平で開催されたJリーグサッカーの試合会場において、来場者に啓発用リーフレット、ポケットティッシュを配布すると

ともに、電光掲示板での動画の放映やハーフタイムに場内を周回して啓発を行ない、薬物乱用防止を訴えた。

○地域団体キャンペーン

各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所に啓発用ポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への呼び掛けを行なった。



静岡県

愛知県

月 日	開催場所	活動主体
4月17日、5月21、28日、6月7、20、22、24、25、26、27日、7月1、2、3、5、8、10、15、18、24、25、28、30、31日、8月5、6、7、21、28日 (実施見込み分を含む)	愛知県内計42カ所（実施見込み分を含む）	愛知県、愛知県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、15地区薬物乱用防止推進協議会（薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、保護司会、更生保護女性連盟、各市町村、警察等）



愛知県

参加人員

1,568人（実施見込み分を含む）

活動状況

6月26日（日）に名古屋市中区の栄広場や地下街において、ボーイスカウト、ガールスカウト、大学生等のヤングボランティア50名が「ダメ。ゼッタイ。」君や県警の「コノハけいぶ」などのキャラクターの応援を得て啓発資材（うちわ）を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。なお、啓発資材には愛知県の薬物乱用防止PR大使「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。」である地元アイドルのOS☆Uの画像を起用した。

また、県内15地区の薬物乱用防止推進協議会がそれぞれヤングボランティア等の協力を得て、ショッピングセンター、市民まつり会場及び駅周辺等で薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金活動を実施した。その他、Jリーグ名古屋グランパスエイト試合開催時のパロマ瑞穂スタジアム、大相撲名古屋場所開催時の愛知県体育館、プロ野球中日ドラゴンズ試合開催時のナゴヤドーム、名古屋競馬場などで、啓発資材の配布、横断幕の設置、場内放送、電光掲示板標示等を行い、薬物乱用防止の周知を図った。

三重県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月19日、20日、24日、27日、30日、7月1日、2日、3日、4日、5日、6日、8日、10日、13日、14日、17日、19日	JR桑名駅前、四日市市立県小学校、内 部川地区、朝明プラザ、四日市市総合会 館7階第3研修室、亀山駅、井田川駅、 下庄駅、関駅、加太駅、亀山高校、徳風 高校、マックスバリュ亀山店、マックス バリュみずほ台店、オークワ亀山店、亀 山エコー、ミスタートンカチ、亀山市総 合保健福祉センターあいあい、白子駅、 鈴鹿市駅、平田町駅、イオンモール鈴鹿、 イオンタウン鈴鹿、F1マートサーキッ ト通り店、鈴鹿エース、近鉄津駅前、近 鉄津新町駅、JR松阪駅前、パローミタ ス伊勢、鳥羽ショッピングプラザハロー、 イオン名張店、アビタ伊賀上野店、JR 尾鷲駅前、主婦の店相賀店前、ブライ スカット海山店前、オークワ紀伊長島店前、 主婦の店長島店前、長島ショッピング中 州店前、セントラルマーケット、サンパ ー、瀬木山主婦の店、東長島公民館、 イオン熊野店、オークワ熊野店、マル井 マート、道の駅パーク七里御浜、計46ヶ 所	主催 三重県薬物乱用対策推進本部、三 重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進 協議会	996人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内各地の主要駅、ショッピングセンタ ーなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用 防止指導啓発団体を中心に、三重県薬 物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ 推進協議会を構成する団体等が官民一 体となって、街頭キャンペーンを行っ た。ポスターの掲示、薬物標本を展示 し、横断幕やのぼり旗を掲揚するととも に、内閣府特命担当大臣のメッセージを 読み上げ、高校生や

県民にリーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン
三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施、店頭での募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。



三重県

滋賀県

月 日	開催場所	活動主体
6月25日	東近江市（西友八日市店）、彦根市（ベ イシア彦根店）計2ヶ所	一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟、 日本ボーイスカウト滋賀連盟、東近江少 年センター、彦根市少年センター、滋賀 県青少年補導センター連絡協議会、社会 福祉法人滋賀県社会福祉協議会、一般社 団法人滋賀県歯科医師会、一般社団法人



滋賀県

参加人員	活動状況
60人 （他所、他）	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2ヶ所のキャンペーン会場において、キャンペ ーン実行委員会が中心となり街頭啓発を実施した。当日、 会場には「ダメ。ゼッタイ。」君、滋賀県イメージキャ ラクターのキャッファイも参加した。各会場で、通行 人に啓発資材のリーフレット、ボールペンを配布した。 また、2ヶ所の会場ではボーイスカウト、ガールスカ ウトによる国連支援募金活動も併せて実施した。
	②地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域 団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、 薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団 体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、 併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に 協力した。

京都府

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月25日	京都市内 4箇所 京都駅（アバンティ、ポルタ）、四条河原町、四条高倉、三条河原町	きょうと薬物乱用防止行動府民会議 主な参画団体 京都府、京都市、京都府警察本部、京都府教育委員会、京都市教育委員会、公益社団法人ガールスカウト日本連盟 京都府支部、日本ボーイスカウト京都連盟、ライオンズクラブ国際協会335-C地区、京都府薬物乱用防止指導員協議会	全体 270名 △内訳▽ ・薬物乱用防止指導員 82名 ・大学生等 67名 ・ガール、ボーイスカウト 47名 ・その他府民会議参画団体 74名	①6・26ヤング街頭キャンペーン 京都駅及び京都市内繁華街4箇所において、府・市・府警関係者をはじめ、大学生、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト等が薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力呼びかけを行った。 ②地域団体キャンペーン ・各種関係団体の店頭等にポスターの掲示及び募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への呼びかけを行った。 ・その他、京都府各地区の薬物乱用防止指導員、警察職員及び各保健所職員等が、駅前、市街地及び商店街等での啓発資材の配布や、小中学校の児童、生徒を対象にした薬物乱用防止教室を実施 ・「社会を明るくする運動」に薬物乱用防止指導員が多数参加し、薬物乱用防止活動をアピールした。 （薬物乱用防止指導員 平成28年4月1日現在 476名）



大阪府



京都府

大阪府

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
①6月26日 ②6月20日～7月19日	①JRT天王寺駅中央コンコース ②府内各地域 計17ヶ所	①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン 大阪府・大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会・大阪府薬物乱用防止指導員協議会 ②地域団体キャンペーン 大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会構成メンバー（大阪府警察・市町村・薬物乱用防止指導員協議会その他協力団体・企業等）	①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン啓発者 35人 約2,500人 関係者 35人 ②地域団体キャンペーン参加者 約30,800人 関係者約490人	①6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン JRT天王寺駅中央コンコースにおいて大学生による薬物乱用撲滅宣言を行うとともに、ボランティア（大阪大谷大学薬学部学生・国際ソロプチミスト大阪・なにわ等）協力のもと、JRT天王寺駅中央コンコースに於いて啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各関係機関・団体および市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。 また、府内各地では、街頭やイベント会場においてリーフレットその他啓発資材の配布を行い、薬物乱用防止を呼びかけた。

兵庫 県

月 日	6月18日、23日、25日、26日、7月7日
開催場所	神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、芦屋市、宝塚市、伊丹市、高砂市、明石市、加東市、宍粟市、豊岡市、篠山市、洲本市 計14か所
活動主体	県、保健所設置市、県薬物乱用防止指導員協議会、各地区薬物乱用防止指導員協議会、兵庫県警察、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト等
参加人員	743人
活動状況	県下12地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、ボーイスカウト・ガールスカウト等のヤングボランティアや、ライオンズクラブ、税関、海上保安庁、警察署、大学生等の関係機関の協力を得て、県下14か所において街頭キャンペーンを実施した。 街頭キャンペーン実施に際し、地域の実情にに応じて、人の多く集まる場所を選定した。例えば、神戸地区では多くの人が集まるショッピングモール「神戸ハーバーランド umie」で啓発活動を実施し、中播磨地区では、地域の主要駅である姫路駅周辺で、若者が多く集まる「姫路ゆかたまつり」での啓発活動を実施した。また、丹波地区では地元高校の協力を得て、啓発会場にて地元の学生と共に啓発活動を実施した。 その他の地区でも、駅前、ショッピングセンター等において、のぼり、横断幕の掲出、啓発パネルの展示、兵庫県のマスコット「はばタン」の着ぐるみ等により啓発効果を高めた。 活動参加者は、啓発用のビブスや帽子、Tシャツ、タスキ等を着用し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」を合言葉に、通行人等に対してリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配付し、薬物乱用の恐ろしさを訴えるとともに、国連支援募金活動を行った。



奈良 県



兵庫 県

奈良 県

月 日	6月25日
開催場所	近鉄奈良駅前行基前広場 計1ヶ所
活動主体	奈良県、奈良県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、奈良県薬物乱用対策推進本部、奈良県警察本部、奈良県教育委員会、ライオンズクラブ国際協会335-C地区8R・9R、奈良県製薬協同組合、奈良県家庭薬配置商業協同組合、(二社)奈良県薬剤師会、(二社)奈良県医薬品登録販売者協会、奈良県医薬品小売商業組合、奈良県毒物劇物取扱者協会、奈良県家庭薬卸協同組合、奈良県医薬品卸協同組合、奈良県医薬品配置協議会、奈良県薬事団体連合会等
参加人員	2,000人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 6月25日(土)に近鉄奈良駅前行基前広場にて、「6・26ヤング街頭キャンペーン」を開催した。薬事関係団体・警察関係等の協力の下、啓発物品(リーフレット・キズバン・啓発用ティッシュ)を配布しながら薬物乱用防止運動を行った。奈良県警察本部少年課の学生ボランティアである少年フォローズ奈POLIを中心に活動を行い、薬物乱用防止についてのアナウンスを行った。なお、この活動については地元テレビの取材・報道がなされた。 ②地域団体キャンペーン なし

和歌山県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月15、25、26日、7月1、5日、8日、12日、16日	和歌山市、岩出市、紀の川市、橋本市、海南市、有田市、有田郡湯浅町、有田郡有田川町、有田郡金屋町、御坊市、日高郡由良町、日高郡日高川町、日高郡日高町、日高郡みなべ町、田辺市、東牟婁郡串本町、東牟婁郡古座川町、東牟婁郡太地町、新宮市、東牟婁郡那智勝浦町 計30カ所	和歌山県、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、和歌山県薬物乱用対策推進本部、関係機関、関係団体、一般社団法人ガールスカウト和歌山県連盟、和歌山県立医科大学ラグビー部 等	のべ777人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内9地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、和歌山県立医科大学ラグビー部、ガールスカウト日本連盟和歌山県支部のヤングとともに和歌山県警察、和歌山海上保安部、田辺海上保安部、大阪税関和歌山支所、各少年センター、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、県内ライオンズクラブなどの関係機関・団体の協力を得て、駅前やショッピングセンター前などで、のぼりや横断幕を掲げ、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』を合言葉に、リーフレット、キズバンド、ティッシュ、うちわなどの啓発物品を配布するとともに、国連支援募金活動を実施した。
				②地域団体キャンペーン 後援団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。また、学校において薬物乱用防止教室の開催及び啓発物品の配布を行った。



鳥取県



和歌山県

鳥取県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月9日、17日、10日	鳥取市（イオンモール鳥取北） 倉吉市（パープルタウン） 日吉津村（イオンモール日吉津）	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鳥取県実行委員会、鳥取県、鳥取県警、鳥取県薬物乱用防止指導員東・中・西部地区協議会、ヤングボランティア	東部（59人）、中部（36人）、西部（52人） 合計147人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 鳥取県薬物乱用防止指導員地区協議会の会員、高校生のヤングボランティア等が中心となって、県内3地区で、ヤング街頭キャンペーンを実施し、地域住民に対し、リーフレットや絆創膏の啓発資材を配布するとともに、国連支援募金活動を行った。鳥取・倉吉会場では、県及び県警察本部所有の着ぐるみを使用して啓発活動を展開した。また、危険ドラッグの乱用防止を呼びかけるため、県が作成したDVDの放映や、マンガ形式の啓発パンフレットを配布するなど、若者に対する啓発に力を入れた。
				②地域団体キャンペーン また、各団体はもとより、各市町村及び県庁地方機関等にもポスター、募金箱等を送付し啓発に努めるとともに、国連支援募金への協力依頼を実施した。そのほか、県庁の電光掲示板等を用いて、広く薬物乱用防止の啓発に努めた。

6.26 各地区の活動スナップ



北海道



青森県



岩手県



宮城県



秋田県



山形県



福島県



茨城県

6.26 各地区の活動スナップ



栃木県



群馬県



埼玉県



千葉県



東京都



神奈川県



新潟県



富山県

6.26 各地区の活動スナップ



石川県



福井県



山梨県



長野県



岐阜県



静岡県



愛知県



三重県

6.26 各地区の活動スナップ



滋賀県



京都府



大阪府



兵庫県



奈良県



和歌山県



鳥取県



島根県

6.26 各地区の活動スナップ



岡山県



広島県



山口県



徳島県



香川県



愛媛県



高知県



福岡県

6.26 各地区の活動スナップ



佐賀県



長崎県



大分県



宮崎県



鹿児島県



沖縄県



J1 川崎フロンターレ公式戦（平成28年7月13日：等々力陸上競技場）

Hisamitsu®

夢のような、きもちよさ。

貼って、寝て、もっときもちいい。**サロンパス**

こり いやす 5月18日は サロンパスの日

肩こり・腰痛・筋肉痛に 第3類医薬品

OTC この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。 ☎ 0120-133250 受付時間／9:00～12:00、13:00～17:50(土日、祝日を除く) www.hisamitsu.co.jp サロンパス 検索

覚えといてな。

すくって

ゴクンで

スーッやで!

飲みすぎ 胸やけ 胃の不快感に

太田胃散 ありがとう いいくすりです。

12月13日 胃に 胃散の日 12月13日は「胃に胃散」の日です。

第2類医薬品

太田胃散

責任世代には、

無理は付き物。今日も負担がのしかかる。プレッシャー・ウエルカム。ストレスなんのその。心は頑張っている、カラダは意外と敏感です。ほら、最近調子悪くないですか？ 普段は意識しない、心臓の動きを感じることは？ そう、それも“どうき”。自律神経の乱れからくる“どうき”や“息切れ”は、年齢に関係なく起こる身近な症状。ストレスがかかる責任世代ならなおさらです。そこで、新発売の『救心錠剤』。自然の生薬が、どうき・息切れなどの症状に効果を発揮します。さあ、今日もグッドコンディションで。不調を引きずりたくないあなたには、

救心錠剤がある。

NEW



どうき・息切れ・気づけ
第2類医薬品

高橋光臣

なんとなく調子が悪い？ もしかしたらカラダの中では・・・

ストレス・疲労の蓄積 自律神経の乱れ 血液循環の滞り 体内の酸素不足 ドキドキする。息が切れる。

救心製薬株式会社
〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7

救心錠剤

検索



新薬物標本

販売価格：29,100 円 送料：実費

- ・健康に生きよう
 - ・小学生用読本
 - ・薬物乱用防止マニュアル Q&A
 - ・薬物乱用防止推進の手引き
- の4冊が同梱されます。
啓発活動の資材としてご活用下さい。



本体ケースサイズ：W425×D250×H60mm（取手含まず）

監修：(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター
製造元：(株)日本医療器研究所製作

リアルティな薬物標本を手に取りながらの指導は、現実感が強まり迫力が違います。

島根県

月 日	6月25日、26日、7月2日
開催場所	松江市、雲南市、出雲市、大田市、浜田市、益田市、隠岐郡隠岐の島町計7ヶ所
活動主体	島根県、島根県薬物乱用対策推進本部、カブスカウト・ボーイスカウト・ガールスカウト・中学生・高校生等のヤングボランティア、ライオンズクラブ、薬物乱用防止指導員等
参加人員	329人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内7ヶ所において、カブスカウト、ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生のヤングボランティアのほか、ライオンズクラブ及び薬物乱用防止指導員、各関係機関の協力を得て街頭キャンペーンを実施した。各参加者は、ショッピングセンターの入口等で「ダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合言葉に啓発資材を配布するとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力によりポスターの掲示やリーフレット等啓発資材の配布を行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。



岡山県



島根県

岡山県

月 日	6月16日、22日、23日、29日、30日、7月1日
開催場所	「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」管内（岡山市、倉敷市、津山市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、備前市、真庭市、美作市、浅口市、和気町において実施）
活動主体	県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会（医師会、薬剤師会、保護司会連合会、少年警察協助力連合会、愛育委員会、理容生活衛生同業組合、食品衛生協会、ライオンズクラブ3361-B地区）、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部（後援等）県内の各税関支署、各海上保安部、各警察署等
参加人員	約740人
活動状況	「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」が中心となり、JR駅前、高等学校等県下19箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止啓発用資材（パンフレット、ポケットティッシュ、絆創膏、シャープペンシル等）を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、併せて国連支援募金を実施した。 また、28年度も高校生等ボランティアの積極的な協力があつた。 「参加学校」関西高等学校、就実高等学校、山陽女子中学校・高等学校、和気閑谷高等学校、倉敷翠松高等学校、総社南高等学校、笠岡工業高等学校、笠岡高等学校、笠岡商業高等学校、岡山龍谷高等学校、鴨方高等学校、おかやま山陽高等学校、井原高等学校、興譲館高等学校、井原市立高等学校、高梁高等学校、高梁城南高等学校、新見高等学校、共生高等学校、真庭高等学校、津山東高等学校、美作高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校

広島県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
① 6月21日、6月27日、6月28日、7月5日、7月12日 ② 6月20日（7月19日までの試合日に放映） ③ 6月20日	① 県内9ヶ所（広島市、廿日市市、呉市、東広島市、三原市、福山市、三次市、安芸高田市、坂町） ② MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島（広島市） ③ エディオンスタージアム広島（広島市）	広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会	① 742人 ② 4人 ③ 95人 ④ 99人 ⑤ 86人 ⑥ 320人 ⑦ 142人 ⑧ 4人	① 6・26 ヤング街頭キャンペーン 薬物乱用防止の啓発物品を配布するとともに、募金活動を行った。 なお、広島市地区においては、広島市立基町高等学校吹奏楽部による演奏及び広島桜が丘高等学校のヤングボランティアによる啓発・募金活動を行った。 ② 野球場及びサッカー競技場における広報 マツダズームズームスタジアム広島において電光掲示板による広報啓発を実施した。 ③ 6月20日に、エディオンスタージアム広島にて電光掲示板による広報啓発を行うとともに、啓発物品の配布を実施した。



山口県



広島県

山口県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月11日、18日、19日、26日、7月9日、10日	岩国市・柳井市・平生町・周南市・山口市・防府市・宇部市・山陽小野田市・長門市・萩市・下関市の10市1町（15か所）	中学生・高校生のヤングボランティア・山口県薬物乱用防止推進員協議会等	599人 （うちヤングボランティア247人）	① 6・26 ヤング街頭キャンペーン 啓発用たすきや帽子を着用したヤングボランティア及び山口県薬物乱用防止推進員地区協議会の会員等が中心となって、「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用を合い言葉に買物客等（約13,100人）に対し、薬物乱用防止のリーフレットや啓発資材（ティッシュ・絆創膏・うちわ等）を配布した。 また、各地域でのぼり、ポスター、アートバルーン等を活用したり、クイズを実施する等、子ども達にも薬物乱用の恐ろしさを広く訴えた。 なお、国連支援募金の呼びかけも併せて行い、薬物乱用防止に関する理解と協力を求めた。募金額は237,123円であった。 ② 地域団体キャンペーン 各市町、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示や募金箱の設置等国連支援募金活動を実施した。

徳島県

月 日	6月18日、25日、26日
開催場所	徳島市、阿南市、阿波市・吉野川市、美馬市、三好市、海陽町合計6地区9カ所
活動主体	県、県薬物乱用防止協議会（県下6地区協議会）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生）等
参加人員	334名 薬物乱用防止指導員105名、ヤングボランティア109名、その他120名
活動状況	○6・26ヤング街頭キャンペーン 県内6地区の薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、薬物乱用防止指導員のほか、中学生、高校生をはじめとするヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得て、県下6地区9カ所でヤング街頭キャンペーンを実施した。人が集まる場所（量販店等）をキャンペーン会場として、薬物乱用防止を訴える横断幕、のぼり等を掲げ、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合い言葉に、来場者等に対して啓発用パンフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。 また、全ての会場において、同時に「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。 ○地域団体キャンペーン 薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て、ポスター等を掲示するとともに、来場者等に対して薬物乱用防止を訴える一声運動を実施した。



香川県



徳島県

香川県

月 日	6月24日、7月1日、3日、7日、17日
開催場所	高松中央商店街、高松市仏生山町、観音寺市・三豊市一円、JR高瀬駅前、観音寺市商店街、イオンタウン宇多津、土庄町役場ビロティ 計8カ所
活動主体	香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚せい剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員等
参加人員	約1,100人
活動状況	県下4保健所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となり、市町、警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・民間団体の協力を得て、県内の主要な繁華街や駅前において、横断幕やのぼりを掲げ、啓発用Tシャツ、たすきを着用し、リーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。また、地元の小・中・高校生も多数参加し、啓発資材の配布や薬物乱用防止の宣誓など、積極的に啓発活動を行った。 街頭キャンペーンを実施するに当たり、地域の夏祭りなどのイベントと合同で実施したり、通勤・通学時間帯に駅前で実施するなど、効果的な活動になるよう努めた。

愛媛県

月 日	6月25日、7月1日、9日、12日、20日、23日
開催場所	四国中央市、新居浜市、今治市、松山市、八幡浜市、宇和島市の計6ヶ所
活動主体	愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会（愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県業協、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置業協会、愛媛県ジェネリック販社協会、愛媛県登録販売者協会）愛媛県警察本部、愛媛県教育委員会 等
参加人員	968名
活動状況	各地の商店街等において、「麻薬・覚せい剤・シンの乱用をなくそう」の横断幕を先頭に、県警本部の音楽隊、愛媛県のゆるキャラ「みきゃん」等も参加する街頭パレードを実施した。 街頭パレードでは、リーフレット・ティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く市民に呼びかけるとともに、国連支援のための街頭募金活動も併せて行い、これらの模様は、地元紙等のマスコミで紹介され、多大な啓発効果があった。 なお、松山市では、高校生96名が一日薬物乱用防止指導員に委嘱されパレード及び街頭募金活動に参加、八幡浜市及び宇和島市でもボランティアの高校生等（17名、16名（うち中学生3名））がパレードや募金活動に参加するなど、青少年の意識の高揚に重点を置いて実施した。

高知県

月 日	6月19日、25日、27日、30日、7月1日、7日、11日、13日、15日、19日、21日
-----	---

開催場所	安芸市、室戸市、東洋町、田野町、安田町、北川村、香美市、高知市、佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、いの町、四万十町、土佐清水市（計15市町村）
活動主体	高知県、高知県薬物乱用防止推進連合協議会、東部・中央東・高知市・中央西・幡多の各地区薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会連合会、小学生、中学生、高校生、大学生）、民生委員、保護司、ライオンズクラブ国際協会336-A地区、関係行政機関職員
参加人員	約750人（うち、ヤング295人）
活動状況	県下6地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得て、パレードを実施。リーフレットや標語入ポケットティッシュなどの啓発資材の配布など行いながら広く県民へ薬物乱用防止を訴えた。併せて国連支援募金への呼びかけを行った。 高知市地区においては、市内商店街アーケード内で、「ダメ。ゼッタイ。」のロゴが入った たすき・帽子・のぼり旗・横断幕を活用し、中学生・高校生によるマーチングバンドの演奏に合わせ、パレードを行いながら、ボーイスカウト、高校生や大学生のヤングボランティアやライオンズクラブ、薬物乱用防止推進員等を中心に、若者から若者への啓発活動及び募金活動を実施した。 他の地区においても、ブラスバンドによる演奏を交えながら、量販店等で街頭キャンペーン及び募金活動を実施するなど、薬物乱用防止への理解と募金への協力を呼びかけた。 また、今後も地域の夏祭りやイベント、「社会を明るくする運動」の日程に合わせて、地域や他団体と連携して順次街頭キャンペーン及び募金活動を行い、薬物乱用防止の啓発を行う予定。



高知県



愛媛県

福岡県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月21日、23日、24日、25日、26日、28日、7月2日、4日、5日、7日、12日	北九州市、福岡市、大牟田市、久留米市、その他保健福祉（環境）事務所管内（筑紫、糸島、粕屋、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、田川、北筑後、南筑後、京築）延べ20か所	県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会3371-A地区、県麻薬協会、（公社）福岡県医師会、（一社）福岡県歯科医師会、（公社）福岡県薬剤師会、（一社）福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会、（公社）福岡県医薬品配置協会、（公社）福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ボーイスカウト福岡県連盟、（一社）ガールスカウト福岡県連盟、福岡県シンナー等取扱業者連絡協議会	1,313人	「6・26」ヤング街頭キャンペーンでは、県下延べ20か所において、ボーイスカウト、ガールスカウトを中心に各協力団体・関係機関のボランティアの参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資材の配布、国連支援募金等を実施した。会場によっては、高等学校チャリディング部による演技等も実施した。 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各市町村、関係団体等に対しては、啓発用ポスターの掲示や国連支援募金箱の設置等の協力を依頼した。ヤフオクドームでは福岡ソフトバンクホークス公式戦の開催時に薬物乱用防止啓発メッセージを大型ビジョンで流した。レベルファイブスタジアムでは、アビスパ福岡のリーグ公式戦開催時に、啓発広告メッセージを大型ビジョンで流したほか、場内アナウンス、競技場内への横断

幕の掲出、啓発資材の配布等を行った。

県の広報誌やラジオ番組を通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動について広報を行った。また、県庁1階ロビーにおいて、薬物乱用防止啓発パネルや、模擬麻薬・危険ドラッグ（パッケージは本物）及び県が作成した薬物乱用防止啓発用DVDを放映した。

佐賀県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月2日、6日、7日、9日、14日、30日	佐賀市、鳥栖市、唐津市、武雄市、鹿島市 計8ヶ所	佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、警察署 等	延べ690名（うちヤング322名）	①ヤング街頭キャンペーン 商業施設や駅周辺等において、高校生やボーイスカウト、ガールスカウト等のヤング、及び関係機関、協力団体の参加を得て、リーフレット、絆創膏や標語入ポケットティッシュなどの啓発資材を配布し、一声運動により通行人等に薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金を実施した。7月30日に行われたJ1サガン鳥栖の試合時に、会場周辺で啓発資材の配布、国連支援募金を実施すると共に、場内に啓発用の看板を設置し、啓発動画の放映を行った。また、ハーフタイム時に横断幕やのぼり旗をもってアナウンスとともに場内を一周し、啓発を行った。 ②地域団体キャンペーン 各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。



佐賀県



福岡県

長崎県

月 日	6月25日、26日、7月1日、9日（2か所）、14日、16日、17日、20日、24日
開催場所	長崎市、佐世保市、壱岐市、佐々町、新上五島町、島原市、諫早市、時津町、五島市、対馬市 合計7市3町10か所
活動主体	長崎県業務行政室、薬物乱用防止指導員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県医薬品登録販売者協会、長崎県保護司会、長崎県防犯協会、ライオンズクラブ国際協会337-C地区、長崎県医薬品配置協会、日本ボーイスカウト長崎県連盟、長崎BBS連盟、長崎浦上・畝刈・矢上・北スポーツ少年団の少林寺教室の小中高生、各市町 等
参加人員	531人
活動状況	①6・26「ダメ。ゼッタイ」ヤング街頭キャンペーン 県、薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下10か所において実施した。 アーケード・大型店舗、また、J2リーグ公式戦スタジアム前等を会場に、啓発用のぼり、啓発用パネル、県内中・高校生から応募があったポスターを展示し、キャンペーンをおこなった。 参加者は啓発用のタスキ・帽子を着用し、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材（パンフレット・ポケットティッシュ・風船等）を配布し、また、同時に各団体の地元小中高生等が中心となり国連支援募金への協力を行い、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 また、警察署・交通安全協会・地域防犯クラブ等と協力し、国道沿いに、啓発用のぼりや横断幕を掲示し、通行人に対して啓発を行った。 ②地域団体キャンペーン



長崎県

各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し薬物乱用防止を訴えた。また、地域で開催される集会、会合等に参加し、啓発資材を配布した。
●青少年への啓発活動
7月8日から7月24日にかけて開催された第98回全国高等学校野球選手権長崎県大会会場（長崎市、佐世保市）において、関係機関の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕の掲示を行い来場者に対する啓発を行った。また、来場者が入場する際、啓発資材（パンフレット）を配布してもらった。

熊本県

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	県内一円
活動主体	熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会337-E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、（公社）熊本県医師会、（一社）熊本県歯科医師会、（公社）熊本県薬剤師会、（一社）熊本県医薬品登録販売者協会、（一社）熊本県医薬品配置協会、熊本県製薬協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、日本薬局協励会熊本県支部、阿蘇製薬（株）、（株）再春館製薬所、リバテープ製薬（株）、熊本県保護司会連合会、熊本県防犯協会連合会、熊本県少年警察ボランティア連絡協議会、熊本県社会教育委員連絡協議会、熊本県地域婦人会連絡協議会、熊本県更生保護女性連盟
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 平成28年熊本地震の影響により中止。 ②地域団体キャンペーン 熊本県薬物乱用防止対策本部本部長、市町村、薬局・医薬品販売業者、病院、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動後援団体、県警本部及び各警察署、中学校、高等学校、大学・高専、地域振興局、教育事務所、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。

大分県

月 日	6月25日（6月22日、23日、24日、26日、7月2日、3日にも実施）
開催場所	大分県内8地域 10カ所
活動主体	大分県及び大分県警察本部
参加人員	ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生、大学生、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、業団体、その他のボランティア団体 計555人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 本キャンペーンは、県薬務室、各保健所等が県内8地域で、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ等のボランティア団体の協力を得て、盛大に行われた。 参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ボールペン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、街頭啓発を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。 特に、大分・由布地区では、大分県警察本部と共催で実施し、若者に対する啓発を盛り上げるため、「ダメ。ゼッタイ。君のマスクットを用いて啓発を行った。 また、「ダメ。ゼッタイ。君の応援として大分県や大分市、大分県警察本部、大分税関支署のマスクットも参加し、大分県警察音楽隊の演奏に合わせてダンスを披露するなど、啓発活動を大いに盛り上げた。 会場となった広場では、視聴覚教材等を登載した薬物乱用防止広報車「ハッピースマイル21」を用いた啓発や横断幕、のぼり、ポスター等による啓発も実施し、道行く人たちに「薬物乱用防止」をアピールした。 ②地域団体キャンペーン 参加を呼びかけた店舗等の店頭「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置し、期間中交通量の多い大分市内の歩道橋2カ所に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。



宮崎県



大分県

宮崎県

月 日	7月2日
開催場所	宮崎市
活動主体	宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 宮崎県薬物乱用防止指導員協議会 宮崎レオクラブ、宮崎フェニックスレオクラブ、ガールスカウト、宮崎県カラオケボックス協会、宮崎市、宮崎県警、宮崎県
参加人員	計 約200名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県庁前にて出発式を行い、高校生4名が内閣府特命担当大臣メッセージを代読した。 続いて、参加者全員が啓発用タスキを着用し、横断幕とのぼり旗を持ち「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と呼びかけながら、県庁前から繁華街デパート前までの約1kmをパレードした。 その後、繁華街デパート前を中心にパンフレット等の啓発資材の配布と国連支援募金活動を実施した。 ②地域団体キャンペーン 関係団体等による国連支援募金活動の実施

鹿児島県

月 日	6月11日、25日、7月2日、9日、11日、16日
開催場所	鹿児島市・指宿・加世田・伊集院・川薩・出水・大口・始良・西之表・屋久島・名瀬及び徳之島保健所地区 計12地区
活動主体	県、県薬物乱用対策推進地方本部、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動県実行委員会、各薬物乱用防止指導員地区協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生、その他関係機関・団体
参加人員	840人（うちヤングボランティア358人）
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動月間中、県下、12地区の薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、中・高校生等及び関係機関・団体の協力を得て、繁華街や大規模店舗等において、のぼり、横断幕を設置し、啓発用パンフレット等を通行人に配布して、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を実施した。 また、県広報番組においてキャンペーンの様子を放送し、本運動の周知及び普及啓発を図った。 ②地域団体キャンペーン 後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、各種研修等において啓発活動を展開した。 その他、6月11日に県医薬品配置協会主催による「第5回（通算24回）チャリティースポーツ大会」が開催され、グラウンドゴルフを通じて、参加者が国連支援募金を行った。



沖縄県



鹿児島県

沖縄県

月 日	6月25日
開催場所	那覇市、名護市、北谷町、豊見城市、宮古島市、石垣市 計6ヶ所
活動主体	県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬物乱用防止協会支部、中学生、高校生、ガールスカウト、ボーイスカウト、その他関係機関・団体
参加人員	333人
活動状況	県内6ヶ所において、ヤングボランティア及び薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資材を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施するとともに、国連支援街頭募金を実施した。 期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。 ①地域団体キャンペーン ②国連支援募金 ③県の広報機関を利用した普及啓発（電光広報塔による広報、県広報誌への掲載） ④一般乗合バスのラッピングバスの運行による普及啓発 ⑤市町村への協力呼びかけ（国連支援募金及びポスター等の掲示） ⑥県内各関係機関への普及・啓発依頼

ダメ。ゼッタイ。普及運動・国連支援募金

国際薬物乱用・不法取引防止デー（6月26日）事務総長メッセージ

プレスリリース 16-055-J 2016年06月27日



首都モンロビア近郊にある自治体のごみ処分場で、作業を見守るリベリア国家警察の薬物取り締まりチーム・メンバー。
2011-2012年に押収されたマリファナなどの薬物およそ400キロ相当を焼却処分している©UNMIL Photo/Staton Winter

きょうは「持続可能な開発目標（SDGs）」が昨年採択されてから、初の「国際薬物乱用・不法取引防止デー」にあたります。目標3は各国に対し、麻薬乱用の予防と治療を強化し、エイズに終止符を打ち、肝炎と闘うよう呼びかけています。目標16は、不法薬物、犯罪、腐敗、テロリズムに取り組むことのできる平和で公正、かつ包摂的な社会と制度の構築支援を目指しています。

SDGsは、4月の国連麻薬特別総会の審議でも参考とされました。これら目標は、人類の健康と福祉を確保するという国際的な薬物統制諸条約の基本原則を裏づけるものとなっています。これを実現するためには、薬物供給の遮断と、薬物の健康に対する悪影響の予防、治療をバランスよく進める必要があります。

世界の薬物問題に取り組むためには、各国政府が慎重かつ統一的な対策を講じなければなりません。薬物の不法取引は越境犯罪組織のネットワーク、組織的な腐敗、そして暴力蔓延の温床となります。それはまた、公衆衛生にとっても大きな脅威となります。貧困層や弱い立場にある女性、子ども、脆弱なコミュニティに暮らす人々を筆頭に、世界で百万単位の人々がその直接的影響を受けています。

世界の薬物問題が提起する課題については、単に実効的なだけでなく、思いやりと人間味のあるグローバルな対応が必要です。4月の国連麻薬特別総会では、投獄に代わる措置の促進、人権擁護の強化、不法収益への一層の注力、腐敗対策という点で具体的な前進が見られました。今年の「国際薬物乱用・不法取引防止デー」にあたり、私は各国、そして各コミュニティに対し、安全保障と治安を健康、人権、持続可能な開発に関する集中的な取り組みに統合することにより、薬物乱用で荒廃した人々の生活改善への取り組みを続けるよう呼びかけます。

街頭キャンペーン

内閣府特命担当大臣メッセージ

今日、薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

薬物は、一度でも手を出すと、自分の意志では止めることができなくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々の人生を取り返しのつかないものにしてしまいます。薬物を絶対に使用してはいけません。

政府では、近年、社会問題となっていた危険ドラッグについて、規制の強化を図り、街頭で販売していた店舗が全て閉鎖となるなど、一定の成果をあげましたが、インターネットを利用して密売されるなど流通の潜在化もみられます。「合法」などと偽って販売されていますが、「合法」でも「安全」でも全くありません。

また、最近では、特に若年層による大麻の乱用が大きな社会問題となっています。「大麻は害がない。」との認識は誤りで、大麻は違法であるだけでなく薬物依存ももたらし、その有害性は他の薬物と何ら変わりありません。

薬物の乱用から自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、きっぱりと断る勇氣を持つことが大切です。皆様一人一人が、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、共に薬物乱用を許さない社会を形成していきましょう。

平成二十八年六月二十六日

内閣府特命担当大臣 加藤 勝信

（薬物乱用対策推進会議議長）

「過去からの物語」 シリーズV

「1900年代初頭：国際麻薬規制条約体制の初期の日々」

麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 前国連薬物・犯罪事務所(UNODC)事務局長特別顧問
元UNODC東アジア太平洋地域センター代表 元国際麻薬統制委員会(INCB)事務局次長

藤 野 彰

ウィーン、1929年12月9日
「1926年ハンブルグにおいて大規模なヘロインの密輸が摘発され、その目的地は上海であると考えられた。この事例は国際連盟文書 ref. C.589.M.225.1926.XI.O. C.488.のなかで扱われている。…この件に関与した Dr. F. R.¹ という人物は1899年にオーストリアのエーデルシュタール² に生まれ、…独身で、居住地は上海 M. D. “鎮江”³ 14だとされる。彼は、その目的は判明していないが頻繁にヨーロッパへ旅行しており、今年の夏の間にはオーストリア、ウィーンに滞在した。もたらされた極秘情報によれば、Dr. R. は大規模な麻薬密輸に従事している。」
〔ウィーン警察局よりニュー・スコットランド・ヤード、ロンドン警視庁長官宛書簡⁴〕



1900年初頭、上海はヨーロッパから極東へ密輸される麻薬の「積み替え地点」として使われていた。従って、国境を越えた合同捜査⁵が頻繁に行われた。そして密輸業者は上海における「租界」も都合よく利

1 原文ではフルネームが記載されている。

2 Edelstal、ハンガリーとの国境近くの街である。

3 原文では、1900年代初頭の、それも外国人が用いたと考えられる表記で、“Kinkiang” Road とあったが、現在の上海に存在する “Zhen Jiang” 通りとあると見られる。

4 英国公文書館ファイル HO 45/24787 63396。

5 「過去からの物語」前のシリーズ参照。

用していた。前記のオーストリア警察からの書簡を受領した後、英国政府内務省と外務省は自国政府の関与について討議したことが判明している。英国外務省は当時、「国王陛下の政府が、上海における国際租界統治に関して、あるいは租界における危険薬物密輸の規制について、いかなる特別な責任をも持っているかのごとき、間違った印象を与えるような措置を取ることは望ましくない」とした⁶。英国外務省は「この場合に取りられるべき措置は、(国際連盟の)阿片諮問委員会またはウィーン警察から出された、上海市議会議長宛の書簡という形をとるのが、より適切と考えられる」と提案した⁷。

英国内務省から外務省あての返事は、「阿片諮問委員会または(国際)連盟事務局阿片課を通しての」連絡は「採用可能な方法ではある」としたものの、これまでの経験からすると、「当該国の政府と直接連絡する方が、連盟事務局阿片課を通すよりは、一層迅速で効果的な方法である」とも付記している⁸。



こういった書簡は、1900年代初頭における国際麻薬規制の状況について、幾つかの興味深い事実を明らかにしてくれる。第一に、国際連盟事務局は既に、麻薬規制や取り締まりの国際協力の中で各国政府を支援すべく、実践的な機能を果たしていたことである。国際連盟事務局は、麻薬密輸に関与していた会社や個人を特定することによって、規制された麻薬が正規の合法的な貿易経路から非合法なルートへ「横流し」されるのを、未然に防ぐのに重要な役割を果た

していた。麻薬規制に関する国際的な情報共有システムの芽生えである。これは後年、国際連合の時代になって、徐々に国際薬物規制の具体的なメカニズムを構築する際の土台となった。

それと同時に、国際連盟阿片諮問委員会は国際麻薬規制において中心的な役割を担っており、各国政府はこの委員会での審議に敏感であった⁹。英国外務省より内務次官あての書簡は、香港を経由したアヘン密輸の事例に関連してこう述べる。

「∴阿片諮問委員会第12会期においてこの問題が審議された際、国王陛下の政府は攻撃されはしなかった。この問題が阿片諮問委員会によって審議され、解決したからには、仏国政府ないし他のいずれの政府も、今後非難するようなことはありそうも無いと思われる。」

第二は、上海にあった国際租界が麻薬の密輸に使われていたことから、国境を越えた、国際的な合同捜査が必要であったという事実である。手元にある資料からは、そういった合同捜査を行うに至ったのには、わけでも英仏両政府の力があつたことがわかる。前記の書簡は、「付け加えるならば、上海の特有な状況からすると、もしもフランスの租界において(麻薬の)密輸がはびこっていたならば、中国のほとんどの場所でも大規模な密輸が行われていたに違いない」と、フランス政府の尽力を高く評価している。

同時に、麻薬の密輸は中国のその他の地でも、ありふれたことであつ

6 英国外務省より内務次官あて書簡 ref. no. F.326/184/86 of 8、英国公文書館ファイル HO 45/24787 63396。

7 同書簡。

8 英国内務省より外務省あて書簡 ref. no. S.O. 74. 450,219/33、英国公文書館ファイル HO 45/24787 63396。

9 英国大使より外務大臣あて1929年12月12日付書簡、英国公文書館ファイル HO 45/24787 63396。



た。1929年に書かれた英国総領事による極秘書簡は、国際租界の警視総監から提供された情報として、アヘン密輸に関しての上海の役割についてこう語る。

「阿片取引は上海の国際租界においてかつては公然と行われていた。阿片の販売と取引がなされていた店舗に対する免許発行は1908年中に次第に停止され、1909年3月には全て廃

止された。それ以外の場所での取引目的の阿片販売免許は、1915年に撤回され、1917年3月以降は全く発行されていない。1917～1920年の間、有力な中国の権益者らによって、密輸され取引されている阿片の大部分を、外国産中国産にかかわらず自分らの手に収めようとする計画が進行していた。この麻薬密輸は、租界において、特に窃盗、強盗、汚職、殺人などの大変な犯罪増加につながった。」¹⁰

状況があまりに深刻に悪化したため、1923年までには「国際租界の境界内において阿片の輸送、貯蔵、または販売（卸しと小売）に携わる者達に対して常に戦いを遂行するため」に「特殊部隊」が編成された¹¹。

この特殊部隊は、手入れを行うために独自の情報収集ルートを確保して、阿片を多量に貯蔵し、また大規模の小売に関わっている者達を、国際租界の境界外に駆逐することに成功したと伝えられる。特殊部隊はさらに捜査を継続し、前記の報告書にある捜査所見からは、既にあの時代に犯罪組織が存在しており、麻薬の密輸に深く関与していたこと、またその活動はごく広範囲に渡り、実に大掛かりなものであったことがわかる。

「1925年には、幾つかの巧妙に計画・建造され、コンクリート製トンネル連絡通路を有する保管倉庫を、とうとう特殊部隊が発見するに至り、大手の阿片密輸業者らは幾度も痛撃を食らうことになった。」この極秘指定された書簡は続けてこう述べる。「阿片密輸の資金調達は、裕福な中国人によって組織されたシンジケートの手でなされている。」当時、上海に密輸されていたのは、中国国内で生産されたもの他、インド、ペルシャ¹²、トルコ製のアヘンであった¹³。

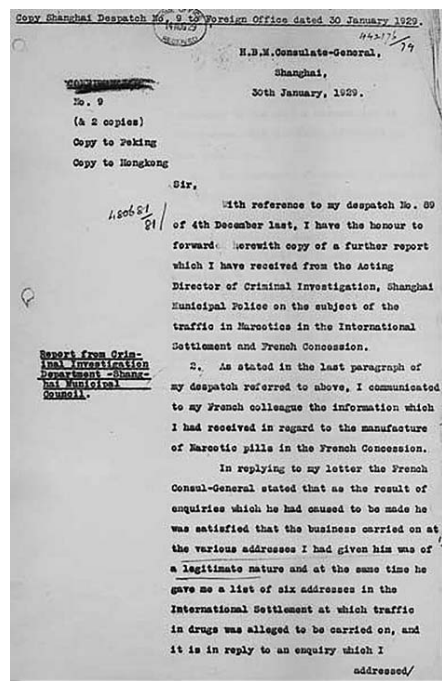
このような国境を越えたアヘン密輸がはびこり、それに対する活発な取り締まり対策が次々に打ち出されるにつれ、国際社会は麻薬規制のための国際条約体制を、新たな段階に進めるために準備を整えてきた。41カ国の代表団がジュネーブにおいて第2国際阿片会議を開くために集い、1912年に採択された世界初の国際麻薬規制条約に続き、法的拘束力を持つ措置を規定した新しい条約を採択したのは、この1925年という年であった。

同上。

11 同上、第2段落。“Special Squad”と記されている。

12 ペルシャ（現在のイラン）を舞台とし麻薬密輸に題材を取った、ハリウッド映画“The Opium Connection”（阿片コネクション）が1966年に製作されている。イアン・フレミングが原作者に名を連ね、オマー・シャリフやユル・ブリンナーなどが主役を演じて、ジュネーブの国連の場から物語は始まる。国連麻薬研究所（実在する）の所長も現地で活躍する（フィクションである）のだが、これはまた別の話となる。

13 当初、インド、ペルシャ（現在のイラン）、トルコにおいてケシが栽培され、それからアヘンが合法的に生産され、そこから非合法的なルートへの「横流し」が横行していた。後に、イランはケシ栽培を全て禁止し、トルコはそのケシからのアヘン生産は停止し、工場での工程を必要とする医療麻薬の原料となる「ケシガラ濃縮液」製造に切り替えた。現在でも医療・研究用にアヘンの合法的な生産が行われているのは、インドのみである。いずれも、厳格な規制がかけられ、国連の監査の対象にもなり、今日では過去のような「横流し」はなくなった。筆者はこういった国際行政規制にも長く携わった。



在上海英總領事館より英国外務省あて書簡、1929年1月30日付。上部に見える日付印から、内務省には同年8月14日に届いたことが見てとれる。"Confidential"（極秘）指定は後に手書きで消されている。

前記の極秘報告書が書かれる前の10年間（1918～1928）に、上海における麻薬取り締まりの努力は明らかに実を結びつつあったと思われる。国際租界の自治警察によって刑事訴追された事例は、1918年には197件のみであったが、その後急速に増加して1920年には1,000件を越し、1926年のピーク時には3,446件にまで至ったのだから¹⁴。

しかしながらその後、1929年に至っても、犯罪組織は麻薬の密輸をするにあたってその活動のレベルを維持していたと伝えられる。手元にある資料では別途検証することはかなわないものの、前記報告書は続けてこう記す。「上海において長年普通に言われていたことのなかに、フランス当局は、密輸に関わっている者達やその関係者を自由に行動させ、その見返りとしてフランス租界の経費を補填するために大規模な献金を受けていた、というものがある。」麻薬密輸に関連する凶悪犯罪には、フランス租界議会の中国人メンバーの拉致事件まであった。

この件に関して、極秘報告書はさらにこう述べる。「しかしながら、今回においては、この（犯罪）組織はあまりにやりすぎたと思われる。フランス当局はフランス租界における阿片密輸を必罰に処するとして、

（拉致された人物を）直ちに解放すべきだと強く要求したと伝えられる。」そして付け加えて言う、「フランス当局は、その脅し（とも言える決意）を断固として遂行するという警告としてか、あるいはジュネーヴ（国際連盟）その他から、極東における阿片密輸に関する特別調査団が派遣されるとの報道があったゆえにか、…フランス租界において、量の多寡にかかわらず、阿片密輸に対する取り締まり手段を強化してきた。」¹⁵

こういった事件は全て、外国産のアヘンが医療目的の合法的な正規の貿易ルートから非合法的なルートへ多量に「横流し」され、その後、上海へ向けての密輸が継続して行われていたことを示唆している。このような背景のもと、国際連盟は医療目的の合法的な麻薬貿易の国際規制を強化するために、迅速な行動を起こし、1931年に開催した国際会議においては57ヶ国が参加し、その年7月13日に「麻薬製造制限及び分配取締に関する条約」を採択した。

わけでもこの条約は、合法的な医療目的での麻薬の需要に関して、「見積み」制度の概念を導入したことが特筆される。この制度のもとでは、各国政府が提出した合法的な医療麻薬の需要見積りを、独立した委員会が仔細に検討し、そこで承認された見積りがなければ、麻薬の合法的な輸出は許可されないことになった。実質的な輸入枠の導入である。従って、麻薬密輸に関わる犯罪組織が例え輸入許可証を偽造したとしても、承認を受けた見積み枠がなければ、輸出が許可されることはなく、国際貿易の過程からの麻薬「横流し」を防ぐのに極めて有効であった¹⁶。

14 前掲書簡、第5段落。
15 前掲書簡、第10段落。

16 この「見積み」制度は、現行の「麻薬に関する単一条約、1961年」にも引き継がれ、複雑な計算を要する、確固とした制度として機能している。筆者が1980年に国連（国際麻薬統制委員会事務局）に採用されて、初めての仕事はこの麻薬「見積み」制度を運用することであった。

国際連盟総会は、この1931年条約を「国際関係と国際法の歴史において先例のない大胆な概念を具現化した」としている¹⁷。

1931年条約を採択した国際会議の議長は、その閉会演説でこの国際会議が成功を収めたことについてこう語った。

「これは計り知れない仕事である。考えてもらいたい。これからは、麻薬貿易に関して、中央（国際連盟）に情報がまとめられる。いかなる国も、各種の報告を提出することなしには、麻薬の製造、輸入、輸出、あるいは他の麻薬への転換をすることはできない。各国は（需要）見積りを出さなければならず、年の終わりに、何が行われたかの詳細な報告を提出しなくてはならない。それぞれの国の申告は精査・検討される。ジュネーヴに置かれる委員会は各国政府を問いただすのに必要な権限を有することになる。…未だかつてこの種の措置が試みられたことはない。…」¹⁸

このように国境を越えた麻薬密輸がはびこっていた背景の中で、1925年と1931年に採択となったふたつの麻薬規制条約は、現在の世界が有する国際条約法体系の基礎となった。その後、国際連盟の時代、さらには国際連合になった後に、採択された諸条約と議定書と共に1961年の「麻薬に関する単一条約」へと統合された。

17 国際連盟文書 A.51.1934.XI, p. 2, "Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotic Drugs of July 13th, 1931: Historical and Technical Study by the Opium Traffic Section of the Secretariat of the League of Nations", Geneva 1937 (「1931年麻薬製造制限及び分配取締に関する条約：国際連盟事務局阿片課による歴史的・技術的論考」、ジュネーヴ、1937年）所収。

18 前掲文書、p.XXI。

啓発用DVD

(販売価格 2,060 円 送料 実費)



NO48

「愛する自分を大切に！ 薬物乱用はダメ。ゼッタイ！」

製作年月 平成 27 年 6 月

上映時間 15 分



NO49

「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。～やさしい解説！～」

製作年月 平成 28 年 9 月

上映時間 15 分

平成27年中の薬物情勢について

(平成28年3月警察庁刑事局組織犯罪対策部薬物銃器対策課公表資料より抜粋)

平成27年における薬物情勢の特徴としては、以下のことが挙げられる。

- 1 薬物事犯の検挙人員は13,524人（前年比+403人、+3.1%）と、ほぼ前年並みであり、このうち、覚醒剤事犯の検挙人員は11,022人（前年比+64人、+0.6%）と、ほぼ前年並みの一方で、大麻事犯の検挙人員は2,101人（前年比+340人、+19.3%）と、平成22年以来5年振りに2,000人以上となった。

大麻事犯の検挙人員が増加した背景としては、20歳代及び20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ6.9人（前年比+1.9人）、2.0人（前年比+0.9人）と増加しており、若年層による大麻の乱用傾向が増大していることが挙げられる。

- 2 覚醒剤の密輸入押収量（粉末）は394.6kg（前年比-53.4kg、-11.9%）と、ほぼ前年並みである一方、覚醒剤密輸入事犯の検挙件数は73件（前年比-77件、-51.3%）と減少しており、特に、近年の主要な仕出地である中国来（21件、前年比-24件）、香港来（8件、前年比-19件）及びメキシコ来（6件、前年比-5件）のものや、主要な手口である「運び屋」によるもの（44件、前年比-77件）が減少した。

薬物犯罪組織による覚醒剤の密輸ルートの分散化や手口の一層の巧妙化が進み、覚醒剤の国内への安定した供給がうかがわれる。

- 3 危険ドラッグ事犯の検挙人員は1,196人（前年比+356人、+42.4%）と増加したものの、その過半数（668人、構成比率55.9%）は平成26年末までに認知したものとなっている。

また、昨年7月には危険ドラッグ街頭店舗が全て閉鎖となったほか、危険ドラッグの使用が原因と疑われる死亡事案が大幅に減少するなど、その対策に一定の効果が上がっている。

他方で、危険ドラッグがインターネットを利用して密輸・密売されるなど流通ルートの潜在化がみられることから、その動向には、引き続き警戒が必要である。

上記のことから、末端乱用者の取締り・広報啓発を継続するとともに、薬物密輸・密売組織の上層部に迫る取締りを強化することとしている。また、危険ドラッグについては、税関等と連携した水際対策のほか、サイバーパトロール等によるインターネット販売対策を継続することとしている。

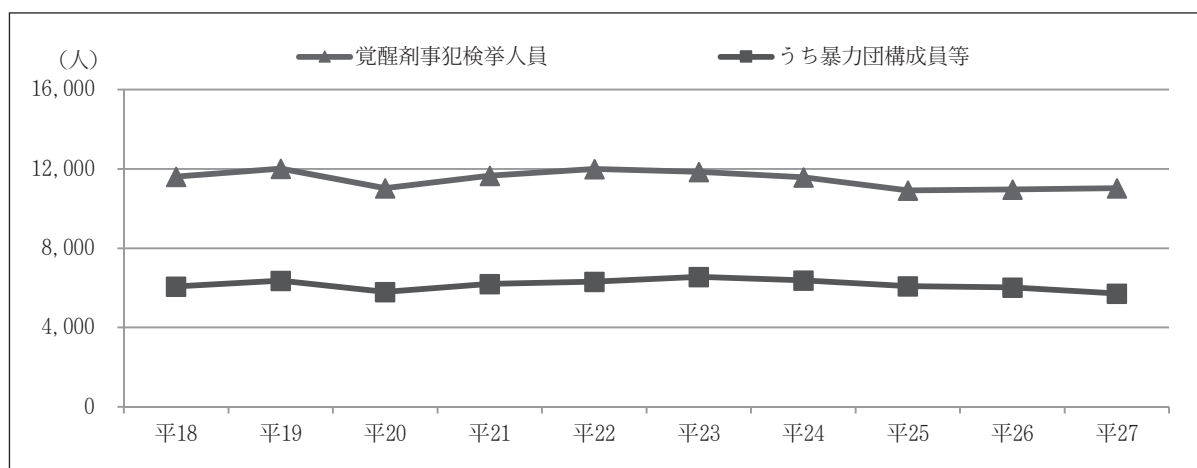
● 主な薬物事犯の傾向、特徴

（1）覚醒剤事犯

覚醒剤事犯の検挙人員は11,022人（前年比+64人、+0.6%）と、戦後の第三次覚醒剤乱用期のピークである平成9年以降、長期的には減少傾向にあるが、依然として1万人を超えている。

また、覚醒剤事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は5,712人（前年比-312人、-5.2%）と検挙人員の51.8%（前年比-3.2ポイント）、外国人は591人（前年比-4人、-0.7%）と検挙人員の5.4%（前年比±0ポイント）を占めている。

〔覚醒剤事犯検挙人員の推移〕



区 別 \ 年 別	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24	平25	平26	平27
覚醒剤事犯検挙人員	11,606	12,009	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577	10,909	10,958	11,022
うち暴力団構成員等	6,076	6,359	5,801	6,201	6,322	6,553	6,373	6,096	6,024	5,712
構成比率 (%)	52.4	53.0	52.6	53.2	52.7	55.3	55.0	55.9	55.0	51.8

ア 年齢層別の検挙状況

年齢層別でみると、近年、人口10万人当たりの検挙人員が各年齢層においてそれぞれ横ばいで推移している。

平成27年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が1.7人（前年比+0.4人）、20歳代が11.0人（前年比+0.4人）、30歳代が21.0人（前年比+1.2人）、40歳代が20.5人（前年比±0人）、50歳以上が4.9人（前年比-0.3人）であり、最も多い年齢層は30歳代、次いで40歳代となっている。

〔覚醒剤事犯年齢別検挙人員〕

区 分			年 別	平23	平24	平25	平26	平27	
覚醒剤事犯	検挙人員			11,852	11,577	10,909	10,958	11,022	
	人口10万人当たりの検挙人員			11.5	11.2	10.6	10.7	10.7	
	年齢別	50歳以上		1,893	2,079	2,206	2,486	2,324	
		人口10万人当たりの検挙人員		4.0	4.4	4.6	5.2	4.9	
		構成比率（％）		16.0	18.0	20.2	22.7	21.1	
		40～49歳		3,473	3,533	3,430	3,697	3,779	
		人口10万人当たりの検挙人員		20.5	20.4	19.4	20.5	20.5	
		構成比率（％）		29.3	30.5	31.4	33.7	34.3	
		30～39歳		4,115	3,884	3,619	3,301	3,383	
		人口10万人当たりの検挙人員		22.5	21.8	21.0	19.8	21.0	
		構成比率（％）		34.7	33.5	33.2	30.1	30.7	
		20～29歳		2,188	1,933	1,530	1,382	1,417	
		人口10万人当たりの検挙人員		15.7	14.2	11.5	10.6	11.0	
		構成比率（％）		18.5	16.7	14.0	12.6	12.9	
		20歳未満		183	148	124	92	119	
		人口10万人当たりの検挙人員		2.5	2.0	1.7	1.3	1.7	
		構成比率（％）		1.5	1.3	1.1	0.8	1.1	
			うち中学生		4	3	1	2	1
			うち高校生		25	22	15	11	14
大学生			21	18	22	11	18		

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

イ 再犯者率

覚醒剤事犯の再犯者率は、平成19年以降9年連続で増加しており、平成27年は64.8％（前年比+0.3ポイント）となっている。

〔覚醒剤事犯の再犯者率〕

区 分		年 別	平23	平24	平25	平26	平27
覚醒剤事犯	検挙人員		11,852	11,577	10,909	10,958	11,022
		うち再犯者数	7,038	7,116	6,899	7,067	7,147
		再犯者率（％）	59.4	61.5	63.2	64.5	64.8
	年齢別	50歳以上	81.5	81.3	79.8	80.2	83.1
		40～49歳	70.4	70.0	69.7	71.2	72.2
		30～39歳	56.1	56.8	58.9	57.3	57.9
		20～29歳	32.9	37.6	39.0	39.2	36.0
		20歳未満	12.0	14.9	15.3	5.4	16.0

ウ 覚醒剤事犯の主な特徴

覚醒剤事犯の検挙人員は、薬物事犯検挙人員の約8割を占めており、依然として我が国の薬物対策における最重要課題となっている。

その主な特徴としては、暴力団構成員等が検挙人員の約半数を占めていることが挙げられる。このほか、30歳代及び40歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ他の年齢層に比べて多いことや、再犯者率が他の薬物に比べて高いことから、強い依存性を有しており、一旦乱用が開始されてしまうと継続的な乱用に陥る傾向があることが挙げられる。

（2）大麻事犯

大麻事犯の検挙人員は、過去10年（平成18年～27年）をみると、平成21年をピークに減少傾向にあったが、平成26年に増加に転じ、平成27年の大麻事犯の検挙人員は2,101人（前年比+340人、+19.3％）と、平成22年以来5年振りに2,000人以上となった。

また、大麻事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は591人（前年比+107人、+22.1％）と検挙人員の28.1％（前年比+0.6ポイント）、外国人は154人（前年比+21人、+15.8％）と検挙人員の7.3％（前年比-0.3ポイント）を占めている。

ア 年齢層別の検挙状況

年齢層別でみると、近年、人口10万人当たりの検挙人員が40歳代及び50歳以上において横ばいで推移している一方、20歳未満、20歳代及び30歳代は増加傾向で推移している。

平成27年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が2.0人（前年比+0.9人）、20歳代が6.9人（前年比+1.9人）、30歳代が4.3人（前年比+0.2人）、40歳代が1.4人（前年比± 0 人）、50歳以上が0.2人（前年比± 0 人）であり、最も多い年齢層は20歳代、次いで30歳代となっている。

〔大麻事犯年齢別検挙人員〕

区 分		年 別	平23	平24	平25	平26	平27
大麻事犯	検挙人員		1,648	1,603	1,555	1,761	2,101
	人口10万人当たりの検挙人員		1.6	1.6	1.5	1.7	2.1
	年齢別	50歳以上	67	71	67	88	104
		人口10万人当たりの検挙人員	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
	40～49歳	構成比率（％）	4.1	4.4	4.3	5.0	5.0
		人口10万人当たりの検挙人員	1.1	1.2	1.2	1.4	1.4
	30～39歳	構成比率（％）	11.2	12.9	14.0	14.6	12.5
		人口10万人当たりの検挙人員	2.8	3.1	3.3	4.1	4.3
	20～29歳	構成比率（％）	30.9	33.9	36.9	38.5	33.3
		人口10万人当たりの検挙人員	5.8	5.3	4.8	5.0	6.9
	20歳未満	構成比率（％）	48.8	44.6	41.0	37.4	42.4
		人口10万人当たりの検挙人員	1.1	0.9	0.8	1.1	2.0
		うち中学生	1	0	0	3	3
		うち高校生	14	18	10	18	24
	大学生		23	23	23	27	31

注１：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月１日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注２：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

イ 初犯者率

大麻事犯の初犯者率は、近年、減少傾向で推移しているものの、平成27年は76.8％（前年比－1.8ポイント）と、依然として高水準にある。

〔大麻事犯の初犯者率〕

区 分		年 別	平23	平24	平25	平26	平27
大麻事犯	検挙人員		1,648	1,603	1,555	1,761	2,101
	うち初犯者数		1,323	1,292	1,208	1,385	1,613
	初犯者率（％）		80.3	80.6	77.7	78.6	76.8
	年齢別	50歳以上	62.7	62.0	46.3	71.6	57.7
		40～49歳	74.1	71.0	71.1	69.3	66.5
		30～39歳	77.8	79.2	78.0	79.4	75.1
		20～29歳	83.6	85.0	81.5	81.0	80.9
		20歳未満	91.4	93.9	93.2	91.3	91.7

ウ 大麻事犯の主な特徴

大麻事犯の検挙人員は、薬物事犯検挙人員の２割弱を占めており、その割合は覚醒剤事犯に次いで多くなっている。

その主な特徴としては、20歳代及び20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ増加しており、30歳未満の若年層による乱用傾向が増大していることが挙げられる。また、初犯者率が依然として高水準にあることが挙げられる。

大麻栽培事犯の検挙状況は115件（前年比－15件、－11.5％）、107人（前年比－9人、－7.8％）と、それぞれ減少した。

〔大麻栽培事犯検挙状況〕

区分	年別	平23	平24	平25	平26	平27
検挙件数		147	111	110	130	115
検挙人員		113	114	91	116	107

● 危険ドラッグ事犯の検挙状況

(1) 危険ドラッグ事犯の検挙状況

危険ドラッグ*事犯の検挙状況は1,100事件（前年比+394事件、+55.8%）、1,196人（前年比+356人、+42.4%）と増加した。

適用法令別でみると、指定薬物に係る医薬品医療機器法違反は895事件（前年比+494事件、+123.2%）、960人（前年比+468人、+95.1%）であり、このうち平成26年4月1日施行の指定薬物の単純所持・使用罪等は671事件（構成比率75.0%）、695人（構成比率72.4%）となっている。このほか、麻薬及び向精神薬取締法違反は133事件（前年比+53事件、+66.3%）、148人（前年比+50人、+51.0%）、交通関係法令違反は36事件（前年比-121事件、77.1%）、36人（前年比-124人、-77.5%）となっている。

また、危険ドラッグ事犯のうち、暴力団構成員等に係る事犯は161事件、175人、外国人に係る事犯は37事件、37人、少年に係る事犯は29事件、30人となっている。

※ 危険ドラッグとは、規制薬物（覚醒剤、大麻、麻薬、向精神薬、あへん及びびけしがらをいう。以下同じ。）又は指定薬物（医薬品医療機器法第2条第15項に規定する指定薬物をいう。以下同じ。）に化学構造を似せて作られ、これらと同様の薬理作用を有する物品をいい、規制薬物及び指定薬物を含有しない物品であることを標ぼうしながら規制薬物又は指定薬物を含有する物品を含む。

〔危険ドラッグに係る適用法令別検挙状況〕

区 分	年 別		平23		平24		平25		平26		平27	
	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員
指定薬物に係る医薬品医療機器法違反	5	6	34	57	21	37	401	492	895	960	671	695
うち乱用者による単純所持・使用等												
麻向法違反	0	0	17	26	57	89	80	98	133	148		
交通関係法令違反	0	0	19	19	38	40	157	160	36	36		
その他法令違反	0	0	6	10	9	10	68	90	36	52		
合計	5	6	76	112	125	176	706	840	1100	1196		

注1：危険ドラッグの検挙事件数・人員は、実務統計（警察庁において調査等により集計する数値）による。

注2：同一被疑者で関連する余罪を検挙した場合でも、一つの事件として計上。

注3：複数の罪で検挙されている場合、主たる罪・人員として計上。

注4：指定薬物に係る医薬品医療機器法違反は、危険ドラッグから指定薬物が検出された場合の検挙をいう。

注5：麻向法（麻薬及び向精神薬取締法）違反は、危険ドラッグから麻薬が検出された場合の検挙をいう。

注6：交通関係法令違反は、刑法（危険運転致死傷、自動車運転過失致死傷）、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律違反（危険運転致死傷、過失運転致死傷）、道路交通法違反をいう。

注7：適用法令（罪名）は、検挙時点を基準として計上（交通関係法令違反の中には、送致時等の罪名変更のものあり）。

注8：乱用者による単純所持・使用等とは、平成26年4月1日から規制が新設された指定薬物の単純所持、使用、購入、譲受けによる違反態様のうち、販売目的等により検挙された供給者側を除くものをいう。

注9：交通関係法令違反及びその他法令違反には、規制薬物及び指定薬物が検出されなかった事件を含む。

注10：平成26年から指定薬物以外の医薬品医療機器法違反は、その他法令違反に計上。

(2) 危険ドラッグ乱用者の検挙状況

危険ドラッグ事犯のうち、危険ドラッグ乱用者*の検挙人員は966人（構成比率80.8%）となっている。

※ 危険ドラッグ乱用者とは、危険ドラッグ事犯検挙人員のうち、危険ドラッグを販売するなどにより検挙された供給者側の検挙を除いたものをいう。

○ 年齢層別の検挙状況

年齢層別でみると、20歳未満が28人（前年比+2人、+7.7%）、20歳代が297人（前年比+61人、+25.8%）、30歳代が330人（前年比+126人、+61.8%）、40歳代が236人（前年比+115人、+95.0%）、50歳以上が75人（前年比+31人、+70.5%）となっており、最も多い年齢層は30歳代、次いで20歳代となっている。

〔危険ドラッグ乱用者年齢別検挙人員〕

区 分		年 別	平26	平27
危険ドラッグ乱用者	検挙人員		631	966
	年齢別	50歳以上	44	75
		構成比率（%）	7.0	7.8
		40～49歳	121	236
		構成比率（%）	19.2	24.4
		30～39歳	204	330
		構成比率（%）	32.3	34.2
		20～29歳	236	297
		構成比率（%）	37.4	30.7
		20歳未満	26	28
		構成比率（%）	4.1	2.9

○ 薬物経験別の検挙状況

薬物経験別でみると、薬物犯罪の初犯者が724人（構成比率74.9%、前年比－4.3ポイント）、薬物犯罪の再犯者が242人（構成比率25.1%、前年比＋4.3ポイント）となっている。

○ 危険ドラッグの入手状況

入手先別でみると、インターネットが336人（構成比率34.8%）と最も多く、次いで街頭店舗が265人（構成比率27.4%）となっている。平成27年1月以降に認知したものの入手先に限ると、インターネットが206人（構成比率44.3%）と最も多くなっており、危険ドラッグの流通ルートの潜在化がみられる。

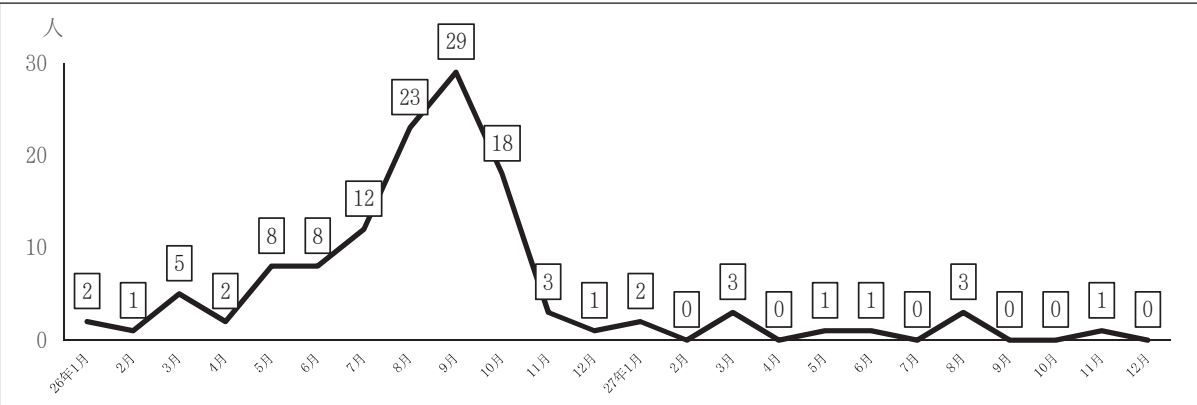
〔危険ドラッグ乱用者入手先別検挙人員〕

区 分		年 別		平26	平27	うち平成26年 12月末までに認知	うち平成27年 1月以降に認知
危険ドラッグ乱用者	検挙人員			631	966	501	465
	入手先別	街頭店舗		366	265	210	55
		構成比率（%）		58.0	27.4	41.9	11.8
		インターネット		124	336	130	206
		構成比率（%）		19.7	34.8	25.9	44.3
		友人・知人		43	110	42	68
		構成比率（%）		6.8	11.4	8.4	14.6
		密売人		36	109	46	63
		構成比率（%）		5.7	11.3	9.2	13.5
		その他・不明		62	146	73	73
		構成比率（%）		9.8	15.1	14.6	15.7

○ 危険ドラッグの使用が原因と疑われる死亡事案の認知状況

危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数は11人（前年比－101人、－90.2%）と大幅に減少した。

〔危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数の推移〕



注1：平成27年12月末現在で警察庁に報告があったものを計上。

注2：発生日ではなく、認知日を基準として計上。

【コラム1】若年層による大麻と危険ドラッグの乱用状況に関する調査結果

警察庁では、若年層による大麻と危険ドラッグの乱用状況等を的確に把握し、今後の対策に役立てるため、平成27年8月1日から同年10月31日までの間に大麻取締法違反で検挙された者のうち、犯行時の年齢が30歳未満で、その違反態様が単純所持、単純譲渡及び単純譲受のものを対象に調査を行い、都道府県警察から、当時の捜査書類等に基づき計273人（20歳未満51人、20歳代222人）分の回答を得た。

危険ドラッグの使用経験の有無については、「あり」が94人（構成比率34.4%）、「なし」が151人（構成比率55.3%）となっている。

危険ドラッグの使用経験がある者の現在の使用状況については、「現在は使用していない」が85人（構成比率90.4%）、「現在も使用している」が7人（構成比率7.4%）となっており、このうち現在は使用していない者の過去の使用状況については、「継続しての使用であったが、やめた」が47人（構成比率55.3%）、「継続しての使用ではなく、試したことがある程度」が38人（構成比率44.7%）となっている。

継続しての使用であったがやめた者のその理由については、「使用していて気分が悪くなった」、「危険ドラッグに対する規制が厳しくなった」、「使用すると命の危険があると分かった」、「危険ドラッグが入手しにくくなった」との回答が多くなっている。

図1-1 危険ドラッグの使用経験の有無（対象者273人）

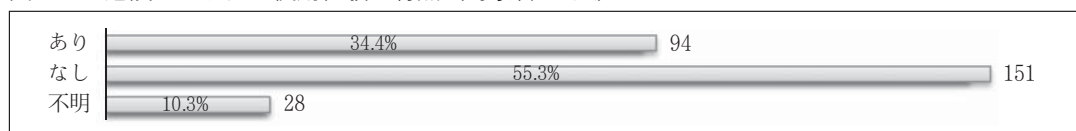


図1-2 現在の使用状況（図1-1で「あり」であった94人）



図1-3 過去の使用状況（図1-2で「現在は使用していない」であった85人）

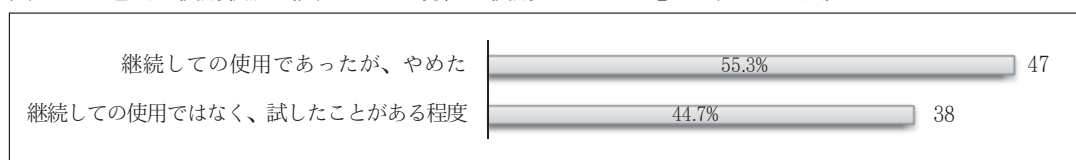
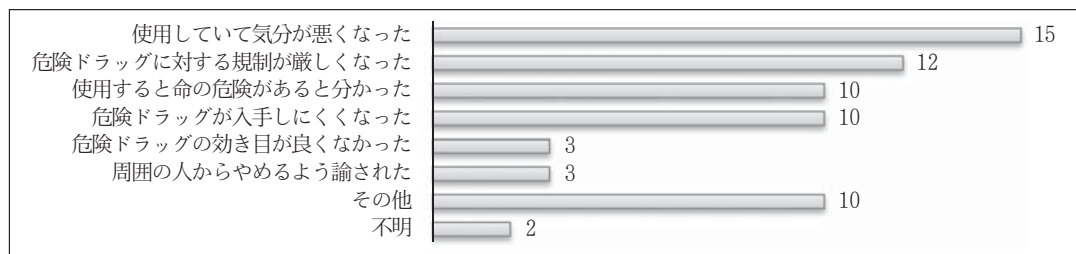


図1-4 危険ドラッグの使用をやめた理由（図1-3で「継続しての使用であったが、やめた」であった47人）【複複数回答可：回答数65】



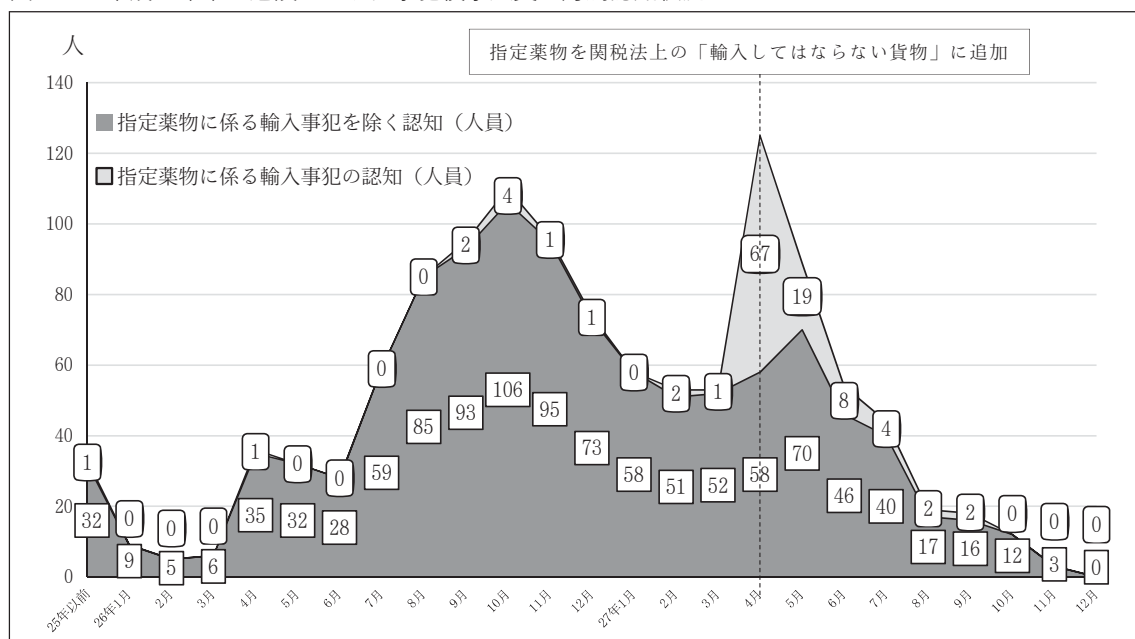
【コラム2】危険ドラッグ事犯の認知状況

平成27年中の危険ドラッグ事犯検挙人員のうち、平成26年12月末までに認知したものは668人（構成比率55.9%）、平成27年1月以降に認知したものは528人（構成比率44.1%）となっている。

月別認知状況をみると、平成26年10月以降は基本的に減少してきており、危険ドラッグ街頭店舗が全て閉鎖となった平成27年7月以降は、その傾向が強まっている。

なお、平成27年4月から同年5月までの間に、指定薬物に係る輸入事犯の認知が急増したことに伴い、全体としての認知が一時的に多くなっているところ、その背景としては、同年4月に改正関税法の施行により指定薬物（医療等の用途に供するために輸入するものを除く。）が同法上の「輸入してはならない貨物」に追加され、指定薬物に係る輸入事犯に対する水際での摘発が強化されたことが挙げられる。

図1-5 平成27年中の危険ドラッグ事犯検挙人員の月別認知状況



啓発資材のご案内

当センターでは、次のような啓発資材を頒布しています。皆様のご利用をお待ちしています。

◆冊子・ポスター・リーフレット等

(送料：実費)

	品 名	最低 注文数	価格 (税込)	備 考
1	健康に生きよう	10冊	1,030	B5判 28頁 中学生向け
2	愛する自分を大切に	10冊	1,030	B5判 20頁 小学生用向け
3	薬物乱用防止マニュアルQ & A	10冊	1,550	B5判 37頁 高校生用向け
4	薬物乱用防止教室推進の手引き	10冊	1,550	B6判 94頁 薬物乱用防止教室開催のハンドブック
5	機能と役割	1冊	515	B5判 96頁 薬物乱用問題の現状と解説
6	これだけは知っておきたい薬物乱用の知識	1冊	515	A5判 145頁 指導者の手引書に有効
7	リーフレット	100部	1,130	A4サイズ (3つ折り) 団体名刷込は3,000部以上 (刷込費用不要)
8	3D下敷	20枚	1,140	A4サイズ 団体名刷込は2,000枚以上 (刷込費用不要)
9	クリアファイル (限定版)	10枚	1,550	A4サイズ 団体名刷込は2,000枚以上 (刷込費用不要) 購入枚数別単価： ①10枚以上 @155円 ②100枚以上 @145円 ③1,000枚以上 @125円 ④2,000枚以上 @115円
10	啓発用キズバンソーコー	100個	1,550	Mサイズ (19×72)mm 2枚入り
11	薬物標本	1式	61,700	アタッシュケースに収納 (45×34×10)cm
	新薬物標本	1式	29,100	アタッシュケースに収納 (42.5×25×6)cm
12	危険ドラッグパネル (4枚組) A2	1式	47,520	A2サイズ (594×420)mm
13	啓発活動用パネル (10枚組) B2	1式	162,200	アルミ枠付 (51.5×72.8)cm
14	啓発用DVD	1枚	2,060	

◆啓発用DVD

(送料：実費)

番号	作 品 名	製作年月	上映時間	備 考
45	薬物乱用はダメ。ゼッタイ。～脳を科学する～	平成25年6月	15分	
46	「ダメ。ゼッタイ君」と「ダメ。くま君」の薬物乱用防止教室	平成26年7月	15分	
47	危険ドラッグは“毒”だ！	平成26年9月	15分	
48	愛する自分を大切に！ 薬物乱用はダメ。ゼッタイ！	平成27年6月	15分	
49	薬物乱用はダメ。ゼッタイ。～やさしい解説！～ (内容) 埼玉県立精神医療センター協力のもと、薬物乱用がいかに危険で恐ろしいかを医師の話を交え、身体に及ぼす影響や薬物依存について分かり易く解説しています。なぜ薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」なのかを学びましょう。	平成28年8月	15分	

ご注文はホームページの購入申込書をプリントアウトしたものでFAXにて承ります。

(公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センター

電話. 03-3581-7436 FAX. 03-3581-7438 アドレス. <http://www.dapc.or.jp>

ご 寄 付 団 体 及 び 賛 助 会 員

平成28年2月16日から平成28年8月2日までに、当センターにご寄附いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

〔ご寄付団体・個人〕

平 古 場 潤 様 新 井 崇 久 様
東京八王子陵東ライオンズクラブ様 (一財)東京都警察懇話会様

〔法人賛助会員〕

東京代々木ライオンズクラブ様 (株) イン タ ラ ッ ク 様
(株) エ ス エ ス 製 薬 様 (株) 豊 島 印 刷 様
学 校 法 人 関 西 大 学 様 丸 石 製 薬 株 式 会 社 様

〔個人賛助会員〕

岡田 松市 様 (継続)	岡田 譲治 様 (継続)	矢口 博行 様 (継続)	栗田 勝治 様 (継続)
中嶋 敏次 様 (継続)	山地 義夫 様 (継続)	伊藤 寛 様 (継続)	百済 さち 様 (継続)
小清水 征次 様 (継続)	児玉 金之助 様 (継続)	中村 楯夫 様 (継続)	原 恒道 様 (継続)
服部 利明 様 (継続)	古木 光義 様 (継続)	寺田 義和 様 (継続)	池田 冬美 様 (継続)
神垣 鎮 様 (継続)	清水 勝利 様 (継続)	関根 寿樹 様 (継続)	武田 久美子 様 (継続)
中本 幾司 様 (継続)	野々 晴久 様 (継続)	松石 高之 様 (継続)	山田 順子 様 (継続)
清水 義勝 様 (継続)	古瀬 智之 様 (継続)	稲荷 恭三 様 (継続)	奥田 英男 様 (継続)
澤田 宏 様 (継続)	田波 慎二 様 (継続)	千葉 信雄 様 (継続)	西沢 芳夫 様 (継続)
星 和夫 様 (継続)	村島 吉豊 様 (継続)	和田 義広 様 (継続)	大村 洋三 様 (継続)
田中 慎二 様 (継続)	荒木 貞雄 様 (継続)	河野 利光 様 (継続)	芳賀 寛 様 (継続)
高槻 七江 様 (継続)	佐藤 照彦 様 (継続)	野原 則子 様 (継続)	丸井 一弘 様 (継続)
清水 享 様 (継続)	石井 征二 様 (継続)	舘 親光 様 (継続)	今井 啓祐 様 (継続)
石原 俊也 様 (継続)	山本 章 様 (継続)	村松 滝夫 様 (継続)	齊藤 勲 様 (継続)
水谷 義広 様 (継続)	藤山 智雄 様 (継続)	徳山 尚吾 様 (継続)	田口 守 様 (継続)
西山 孟夫 様 (継続)	津村 信彦 様 (継続)	篠 順三 様 (継続)	羽原 敬二 様 (継続)
田坂 治 様 (継続)	永浜 静江 様 (継続)	鈴木 陽子 様 (継続)	



公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-7-9 (第1岡名ビル2F)

TEL.03 (3581) 7436 ~ 7 FAX.03 (3581) 7438

ホームページアドレス <http://www.dapc.or.jp>



命を救えるゼリーかどうか。



同じに見える服薬ゼリーでも、 命に関わる差があります。

世界初

35ヶ国と1地域で
特許取得

命がけて薬を飲まなければならない人がいます。怖いのは誤嚥による肺炎の発症。ごはん薬をまぶして食べる高齢の方を目の当たりにした時、私たちは命を救える服薬補助剤をつくろうと心に決めました。ただ喉をスムーズに流れるだけでなく、薬が胃に届いた後のことまで考えたゼリーの開発はまさに手探り。飲みやすさと安全性の追求は発売以来18年間も続き、特許を10件も取得できたほどでした。いま、そうして生まれた「らくらく服薬ゼリー」が、医療や介護の現場で歓迎され、お子様の薬嫌いをなくすお手伝いできていることに、私たちは少し胸を張っています。「らくらく服薬ゼリー」は、薬を楽しく安全に飲むための新しい習慣です。服薬ゼリーを選ぶ時はくれぐれもその安全性をお確かめください。

<https://www.ryukakusan.co.jp/>

検索 らくらく服薬ゼリー

—— ご家族ひとりひとりの ——
らくらく[®]服薬ゼリー

ゴクン! といえば

株式会社 龍角散

東京都千代田区東神田 2-5-12
お客様相談室 0120-797-010 10:00~17:00 (土・日・祝日を除く)



らくらく服薬ゼリー
(レモン味)



らくらく服薬ゼリー
スティックタイプ (レモン味)



らくらく服薬ゼリー 漢方薬用
(いちごチョコ風味/コーヒゼリー風味)



らくらく服薬ゼリー 漢方薬用
(いちごチョコ風味/コーヒゼリー風味)



らくらく服薬ゼリー 漢方薬用
(いちごチョコ風味/コーヒゼリー風味)



らくらく服薬ゼリー 漢方薬用
(いちごチョコ風味/コーヒゼリー風味)



らくらく服薬ゼリー 漢方薬用
(いちごチョコ風味/コーヒゼリー風味)



らくらく服薬ゼリー 漢方薬用
(いちごチョコ風味/コーヒゼリー風味)



らくらく服薬ゼリー
携帯パック (レモン味)

介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

八王子市暁町



●シルバーレジデンス八王子

直下型地震にも対応
安心の免震構造
●シルバーレジデンス日野東館



多摩モノレール
甲州街道駅徒歩1分!!
●シルバーレジデンス日野



八王子市宮下町

●シルバーレジデンス八王子西



八王子に隣接
救急指定右田病院

日野・日野東館に隣接
康明会
ホームケアクリニック

在宅福祉部

- 居宅介護支援事業所
シルバーレジデンスいちょうの里
- 訪問介護事業所
シルバーレジデンスいちょうの杜
- セカンドライフ応援倶楽部
シルバーレジデンスいちょうの実

「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。
シルバーレジデンス

パンフレットのご請求は

0120-19-0432

ホームページ **シルバーレジデンス** 検索

株式会社シルバーレジデンス 代表取締役会長 石井 征二(八王子陵東LC)

ファイト
イッパツ!



肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に…

リポビタンD

指定医薬部外品 タウリン1000mg配合

〈効能・効果〉肉体疲労・食欲不振・病中病後・栄養障害・発熱性消耗性疾患などの場合の栄養補給。滋養強壮。
◎本品についてのお問合せは【お客様119番室】電話03-3985-1800 受付時間8:30～21:00(土・日・祝日を除く)
大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1 <http://www.taisho.co.jp/lipovitan/>

小林製薬

肩こりに、
血行促進成分が
効く。

アンメルツは血行を促進して、
肩の筋肉に溜まった肩こりの原因物質*を流し、
肩こりをラクにします。

*肩こりの原因物質＝疲労物質

肩こり、筋肉痛に

NEW アンメルツ 第3類医薬品 **3333 A**

※使用上の注意をよく読んでご使用ください。 ◎お買い求めはお近くの薬局・薬店・ドラッグストアへ

発売元／小林製薬株式会社 〒541-0045 大阪市中央区道修町4-4-10 KDX小林道修町ビル

小林製薬お客様相談室 06-6203-3625 (受付時間 9:00～17:00 土・日・祝日を除く) <http://pr.kobayashi.co.jp>

